

資料編

資料編

資料1 上位関連計画の概要

(1) 国の上位関連計画等

沖縄振興計画(沖縄21世紀ビジョン基本計画)	
性格	沖縄 21 世紀ビジョンは平成 22 年 3 月に策定され、沖縄振興特別措置法にもとづく沖縄振興計画の期間は、平成 24 年度から平成 33 年度までの 10 年間である。
目標期間	平成 24 年度～33 年度までの 10 年間
基本施策	1.沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島をめざして 2.心豊かで、安全・安心に暮らせる島を目指して 3.希望と活力にあふれる豊かな島を目指して 4.世界に開かれた交流と共生の島を目指して 5.多様な能力を発揮し、未来を拓く島を目指して
施策の展開	2.心豊かで、安全・安心に暮らせる島を目指して (1) 健康・長寿おきなわの推進 イ 「スポーツアイランド沖縄」の形成 (前文略) さらにスポーツ・レクリエーション環境の整備については、県民がスポーツに親しみ、健康な体をつくり、健康・長寿を達成するため、スポーツ・レクリエーション施設等を整備し、適切に管理するとともに、広域的レクリエーション機能を備えた運動公園等の施設整備の充実、安全で気軽にウォーキングやジョギング、サイクリング等ができる環境づくりを推進します。また、トップアスリートの育成のためのトレーニング設備等を備えたスポーツ施設や様々なスポーツコンベンションの開催が可能な施設の整備に取り組みます。 3.希望と活力にあふれる豊かな島を目指して (2) 世界水準の観光リゾート地の形成 ア 国際的な沖縄観光ブランドの確立 (前略) さらに沖縄科学技術大学院大学をはじめ県内外の研究教育機関等と連携した学術会議やサッカーの国際試合など大規模なスポーツコンベンション、各種催事の開催を推進するとともに、これらに対応できる全天候型多目的施設の整備を行い、MIC E を推進します。(P 59) 第 5 章 圏域別展開 (2) 中部圏域 イ圏域の特色を生かした産業の振興 (ア) 観光リゾート産業の振興 (前略) また、国際色豊かな独特のチャンプルー文化が根付いた沖縄市を中心として、沖縄全島エイサーまつりなどの音楽・芸能を活用した観光・レクリエーション拠点の形成を促進します。さらに、本圏域に集積するスポーツコンベンション施設の拡充を促進するとともに、プロスポーツキャンプ等の受入れやおきなわマラソンなど各種スポーツイベント開催をはじめとするスポーツツーリズムを推進します。あわせて、スポーツ医・科学分野との連携など、新たな展開の促進も図りつつ、スポーツアイランド沖縄を形成する拠点としての整備を図ります。

スポーツ基本法	
性格	第 177 回国会（常会）においてスポーツ基本法が成立し、平成 23 年 6 月 24 日に、平成 23 年法律第 78 号として公布された。さらに、平成 23 年 7 月 27 日にスポーツ基本法の施行期日を定める政令（平成 23 年政令第 231 号）が公布され、スポーツ基本法は、平成 23 年 8 月 24 日から施行されている。 スポーツ基本法は、昭和 36 年に制定されたスポーツ振興法（昭和 36 年法律第 141 号）を 50 年ぶりに全部改正し、<u>スポーツに関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務並びにスポーツ団体の努力等を明らかにするとともに、スポーツに関する施策の基本となる事項を定めたものである。</u>

	同法は、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは全ての人々の権利であるとするとともに、スポーツが、青少年の健全育成や、地域社会の再生、心身の健康の保持増進、社会・経済の活力の創造、我が国の国際的地位の向上等国民生活において多面にわたる役割を担うことを明らかにしている。 また、<u>スポーツ立国の実現を目指し、国家戦略として、スポーツに関する施策を総合的・計画的に推進していくことを示している。</u>
施行日	平成 23 年 8 月 24 日
施策	
施策の展開	以下、スポーツ基本法より 第 1 章 総則 3 国、地方公共団体の責務 国、地方公共団体は、基本理念にのっとり、スポーツに関する施策を策定し、実施する責務を有することが定められている。（スポーツ基本法のパンフより） 第 3 章 基本的施策 (一) <u>スポーツの推進のための基礎的条件の整備等について、指導者等の養成等、スポーツ施設の整備等、学校施設の利用、スポーツ事故の防止等、スポーツに関する紛争の迅速かつ適正な解決、スポーツに関する科学研究の推進等、学校における体育の充実等の施策を定めることとした。</u>（第一条～第二〇条関係）

スポーツ基本計画(平成 24 年 3 月 30 日)文部科学省	
性格	スポーツ基本法（平成 23 年施行）の理念を具現化し、今後わが国のスポーツ施策の具体的な方向性を示したものとして、国、地方公共団体及びスポーツ団体等の関係者が一体となって施策を推進していくための重要な指針として位置づけられており、10 年間程度を見通した基本方針を定め、平成 24 年度から概ね 5 年間に総合的かつ計画的に取り組む施策を体系化している。
目標期間	平成 24 年度から平成 28 年度までの概ね 5 年間
施策	
施策の展開	スポーツ基本法では、地方公共団体は、スポーツ基本計画を参酌して、その地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画を定めるよう努めることされている。本計画が、地方公共団体の計画策定の指針となるよう、国と地方公共団体が果たすべき役割に留意して策定している。（P3～P4） 3.住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備 政策目標：住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境を整備するため、総合型地域スポーツクラブの育成やスポーツ指導者・スポーツ施設の充実等を図る。（P22）

観光立国推進基本計画(平成 24 年 3 月 30 日閣議決定)	
性格	本計画は、平成 19 年 1 月に施行された観光立国推進基本法の規定に基づき、観光立国の実現に向けて基本的な計画として定めている。計画の期間は平成 24 年度から平成 28 年度の 5 年間である。
目標期間	平成 24 年度から平成 28 年度までの 5 年間
施策	
施策の展開	2-3 国際会議等の M I C E マーケティング国際競争力強化 (3) M I C E に関する受入環境の整備 (前文略) M I C E の受入にあたって求められるその他の受入環境についても、関係省庁、地方公共団体及び関係機関等とも連携を図りつつ、十分な整備を図る。（P23） 3.政府全体により講ずべき施策 3-2 国際競争力の高い魅力ある観光地域の形成 (二) 観光資源の活用による地域の特性を活かした魅力ある観光地域の形成 ⑥温泉その他文化、産業等に関する観光資源の保護、育成及び開発 ク スポーツツーリズムの推進 (前略) M I C E の推進の要となる国際スポーツイベントの招致活動は、訪日プロモーションやシティーセールスと連動することで相乗効果を有するものである。

MICE推進アクションプラン (MICE推進アクションプラン国際交流拡大のためのMICE推進方策検討会報告書)	
性格	平成21年3月から6月までの間計4回開催した「国際交流拡大のためのMICE推進方策検討会」における議論を踏まえ、我が国MICE推進のための基本的な課題・方向性及びアクションをとりまとめたものである。内容は二部構成で「施策の基本的課題と方向性」及び「国際交流拡大に資するMICE推進アクションプラン」である。
目標期間	
施策	
施策の展開	8 法律・制度等の整備 (2) 施設の整備 (前略) 展示場施設における会議場の併設、さらには、横浜のような宿泊施設、商業施設等も含めた「MICEゾーン」の整備及び更なる充実も重要であるという指摘もある。 他方、地方で国際会議を行う場合は、会議専用施設ではなくとも市民会館、大学等の設備を使用するなどの工夫をしながら開催している例もあり、地方におけるMICE施設として参考になるものである。 なお、施設整備、改修等を進めるに当たっては、民間の活力の利用も含め、整備コストの低減のために必要な措置を関係者がとっていくことが必要である。 ※ MICE とは：企業等の会議 (Meeting)、企業の行う報奨・研修旅行 (インセンティブ旅行) (Incentive (Travel))、国際会議 (Convention)、イベント、展示会・見本市 (Event/Exhibition) の頭文字のこと

防災基本計画(平成26年1月) 中央防災会議	
性格	本計画は、災害対策基本法に基づき、中央防災会議が作成する計画で、「防災に関する総合的かつ長期的な計画」を定めるとともに、「防災業務計画及び地域防災計画において重点を置くべき事項」及び「防災業務計画及び地域防災計画の作成の基準となるべき事項」を定めてある。指定行政機関・指定公共機関は防災業務計画を、都道府県市町村防砂会議は地域防災計画を作成するものである。
目標期間	計画期間を定めず、また網羅的に防災対策について記載しており、施策間の優先付けはしていない。
施策	
施策の展開	・ 防災基本計画は網羅的に施策を記載しているが、地域防災計画、防災業務計画を作成する際に地域特性に配慮すること ・ 計画に基づくマニュアルの作成・訓練の実施等により指定行政機関・実施状況を把握すること ・ 時々の防災上の重要課題を把握し、基本計画に反映させていくこと

(2) 沖縄県の上位関連計画等

沖縄21世紀ビジョン基本計画(沖縄振興計画)	
性格	
目標期間	平成24年度～平成33年度
施策	【基本施策の展開方向】 男女とも平均寿命日本一を取り戻し、「健康・長寿おきなわ」を維持継承するため、沖縄の食文化の優れた面や風土・コミュニティの良さを再評価し、県民一ひとりが健康意識を高め、県民一体となった健康づくりの取組や食育の推進をはかり、健康で生き生きとした生活習慣の定着を促進します。また、県民の健康な体づくりを促す生涯スポーツや競技スポーツ及びスポーツコンベンションを推進し、「スポーツアイランド沖縄」の形成を目指します。
施策の展開	1) 健康・長寿おきなわの推進 イ 「スポーツアイランド沖縄」の形成 県民がスポーツに親しみ健康の維持・増進が図られる生涯スポーツの推進や競技スポーツにおけるトップアスリートの育成、県民がスポーツに触れる機会の創出を図るとともに、地域振興にも寄与するスポーツコンベンションを推進することにより、スポーツアイランド沖縄の形成を目指します。このため、生涯スポーツ・競技

	スポーツの振興については、スポーツ・レクリエーションイベントの開催や総合型地域スポーツクラブの創設・育成の促進により、生涯スポーツ社会づくりを推進するほか、小学生から社会人までの一貫した指導体制の充実や競技力の向上、スポーツ指導者の養成・確保、スポーツ医・科学の観点からのサポート等により、国内外において活躍するトップアスリートの育成に取り組みます。 また、スポーツコンベンションについては、沖縄の亜熱帯海洋性気候や地域特性を生かした地域スポーツ拠点の形成を図るとともに各種スポーツキャンプやイベントの誘致活動を実施し、スポーツを通じた交流を推進するほか、受入体制の整備に取り組みます。 さらに、スポーツ・レクリエーション環境の整備については、県民がスポーツに親しみ、健康な体をつくり、健康・長寿を達成するため、スポーツ・レクリエーション施設等を整備し、適切に管理するとともに、<u>広域的レクリエーション機能を備えた運動公園等の施設の充実、安全で気軽にウォーキングやジョギング、サイクリング等ができる環境づくりを推進します。また、トップアスリートの育成のためのトレーニング設備等を備えたスポーツ施設や様々なスポーツコンベンションの開催が可能な施設の整備に取り組みます。</u>
--	--

沖縄県スポーツ振興計画	
性格	本計画は、スポーツ基本法を踏まえつつ、「沖縄 21 世紀ビジョン基本計画」のスポーツ分野に係る個別計画である。沖縄県のスポーツ振興について、県、市町村、学校、地域、民間企業等、本県のスポーツに関わるすべての人・団体が一体となって取り組む方向性を示すものである
目標期間	計画の期間は、平成 25 年度から平成 33 年度までの 9 年間とする。
基本施策	
施策の展開	Ⅲ 基本施策と方向性 2. 一人ひとりのライフステージに応じたスポーツ活動の推進 (1) ライフステージに応じたスポーツ活動の推進 (障害者のスポーツ環境の整備充実) ○障害者スポーツの推進にあたっては、障害者のスポーツ活動に知見のあるスポーツ指導者の確保、育成を図るとともに、関係行政部門及び県障がい者スポーツ協会等と連携しながら、<u>目的に応じたプログラムの開発やバリアフリーに留意しながらスポーツ施設の整備を推進する。</u> (P19) (4) スポーツにおける安全性の確保 (スポーツ施設等の安全対策の推進) ○市町村と連携しすべての地域住民が楽しく安全にスポーツ・レクリエーション活動に親しめる環境を創出するため、公共スポーツ施設等の耐震化、バリアフリー化等安全確保に努める。 (スポーツ施設のバリアフリー化) ○高齢者や障害者を含むすべての県民が楽しく安全にスポーツを親しめる環境を創り出すため、スポーツ施設のバリアフリー化を推進する。P23 3. 住民が主体的に参加する地域のスポーツ環境の整備 住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境を整備するため、総合型クラブの育成やスポーツ指導者及びスポーツ施設の充実等を図る。(P24) (3) 地域スポーツ施設の充実 【施策の方向性】 (公共スポーツ施設の整備等) ○県民がスポーツに親しみ、健康な体をつくり、健康・長寿を達成するため、スポーツ・レクリエーション施設等を整備し、適切に管理する。また、安全で気軽にウォーキングやジョギング、サイクリング等ができる環境づくりを推進する。 (スポーツ施設の安全性の確保・充実) ○子供や女性、高齢者、障害者を含むすべての地域住民が楽しく安全にスポーツ・レクリエーション活動に親しめる環境を創り出すため、バリアフリー化やグラウンドの芝生化等、公共スポーツ施設等の充実に努める。(P29) 6. スポーツを活用した地域活性化の推進 【施策の方向性】

	スポーツ・ツーリズムの推進 (スポーツ・ツーリズム受入のための施設整備の推進) ○スポーツツーリズムの受入施設については、芝生の状態をプロサッカーのキャンプに対応可能なレベルに維持するなど、スポーツ種目の特性にあった整備を図る。 ○全天候型多目的施設の整備にあたっては、バスケットボール等の大型スポーツコンベンションも開催可能な施設の整備を推進する。(P44) 7.地域のスポーツ資源を活かした特色あるスポーツの推進 (1) 地域密着型スポーツチームの支援と交流 【施策の方向性】 (スポーツエンターテイメントとしての施設の整備と利用) ○全天候型多目的施設については、バスケットボール等の大型スポーツコンベンションも開催可能な施設整備を推進するとともに、観るスポーツとしてのプロスポーツ仕様のスポーツエンターテイメントに対応した施設設計を検討する。また、安定的な集客が図れるよう、ホームゲームにおける優先的利用に配慮する。
--	---

沖縄県観光振興基本計画(第五次)	
性格	沖縄県では、平成 14 年に国が策定した沖縄振興計画における分野別計画として取り組みをつづけてきた。本計画も、沖縄県観光振興条例（昭和 54 年条例第 39 号）第 7 条に基づき沖縄 21 世紀ビジョン基本計画（沖縄振興計画）が掲げる、「世界水準の観光リゾート地」の実現に向けて、沖縄観光が国内外に広く認知される基盤を構築しようとするものである。
目標期間	本計画は平成 24 年 5 月 31 日に決定され、期間は、平成 24 年度から平成 33 年度までの 10 か年である。
施策	
施策の展開	Ⅳ 施策の展開 1.多様で魅力ある観光体験の提供 (3) 多様なツーリズムの展開 ア スポーツ・ツーリズムの展開 温暖な気候や既存のインフラを活かして、野球やサッカーなどの各種キャンプ・大会の誘致などスポーツを活用した観光を推進する。 また、<u>サッカーの国際試合など大規模なスポーツコンベンションに対応できる全天候型多目的施設などの施設整備を進めるとともに、野球のキャンプ地訪問観光や、サッカー、バスケットボールなど地元チームを活かした観光の推進を図り、県民と観光客が一体となって楽しめる観光を推進する。</u> 2.基盤となる旅行環境の整備 (1) 交通網の整備 ウ 島内陸上ネットワークの整備 オ 環境に配慮した交通手段の導入支援 (5) ユニバーサルデザインの推進 イ施設・設備面におけるユニバーサルデザインの推進 (P42) V 圏域別の基本方向 (2) 中部圏域 【展開の基本方向】 国際色豊かな独特のチャンプルー文化が根付いた沖縄市を中心として、音楽・芸能を活用した観光・レクリエーション拠点の形成を促進する。(P54)

大型 MICE 施設整備と街づくりへ向けた基本構想	
性格	本構想は平成 24 年度調査の検討を踏まえて策定している。調査結果を受けて、新規 MICE 施設に想定される需要推計や MICE 施設整備や周辺の街づくりの基本的方針を取りまとめたものである。(平成 26 年 3 月)
目標期間	
施策	
施策の展開	2.過年度における検討状況 2.1 MICE 施設及びエリアの現状と課題 2.2 新規 MICE 施設整備により誘致・開催が期待される MICE 像 2.3 新規 MICE 施設の規模・構成

	3.新規 MICE 施設に関する需要推計 3.4 需要推計を踏まえ誘致開催の対象とすべき MICE 像 4.新規 MICE 施設整備の基本方針 4.1 MICE 施設整備の基本方針 4.2 MICE 施設の設計方針 4.3 施設整備の各種要件について 5. 建設地の基本的考え 5.1 新規 MICE 施設の建設地の評価項目 6.事業収支と想定される整備・運営手法 6.1 新規 MICE 施設の事業収支 6.2 想定される運営手法 7. 新規 MICE 施設整備により想定される効果・課題 7.1 整備により期待される効果 7.2 整備により想定される影響・課題とその対策
--	--

沖縄県地域防災計画(平成 25 年 3 月修正)沖縄県防災会議	
性格	この計画は、災害対策基本法第 40 条の規定に基づき沖縄の地域に係る災害対策に関する事項を定め、もっと総合的にかつ計画的な防災行政の推進を図るとともに、防災に万全の期することを目的としている。また、市町村が処理する防災に関する事務または業務の実施についての援助及び調整を行う。
目標期間	期間の定めはないが、毎年検討を加え、必要があると認めるときには修正しなければならない。

(3) 沖縄市の上位関連計画など

第四次沖縄市総合計画 前期構想 基本計画	
性格	2001 年度(平成 13 年度)にスタートした第 3 次沖縄市総合計画が、2010 年度(平成 22 年度)に終了することから、本市の将来像である国際文化観光都市に今日的な意義を付し、「沖縄市大好き! 人・文化・環境をつなぐまち」を基本構想の基本方針に掲げ、2020 年度(平成 32 年度)を目標年次とする向こう 10 年間のまちづくりを推進する第 4 次沖縄市総合計画(基本構想・基本計画)を策定する。 第 4 次沖縄市総合計画は、行政計画の最上位計画であるとともに沖縄市のまちづくりの根幹をなすものであることから、新たな時代の潮流や多様な市民ニーズに対応する計画とするため、市民との協働を基軸に、誰もが分かりやすい計画となるよう施策体系を重視して策定する。 また、2015 年度(平成 27 年度)を目標年次とする向こう 5 年間の「前期基本計画」においては、施策毎に目標値を設定することで、その具体的な方向性を明らかにするとともに、質の高いサービスの提供を目指すものとする。 基本理念 本市は、将来像である「国際文化観光都市」の宣言において、「健康で美しい沖縄市」「明るくて住みよい沖縄市」「平和で豊かな沖縄市」を市民の願い、望み、そして、目標としました。 これからのまちづくりを貫く方向性として、「人」「文化」「環境」を中心に位置づけ、本市に住む人びとが誇りと愛着を持てるまちをめざし、「沖縄市大好き! 人・文化・環境をつなぐまち」を本構想の基本方針とします。
目標期間	2011 年度(平成 23 年度)から 2020 年度(平成 32 年度)
施策	<6 つの基本構想> ・平和を創りかおり高い文化を発信するまち ・未来に輝き世界にはばたくこどものまち ・心がふれあい安心の輪でつながるまち ・人と資源を活かし産業の力づよい成長を支えるまち ・地球にやさしく安全で安心な暮らしができるまち ・潤いある快適な空間を将来につなぐまち
施策の展開	平和を創り かおり高い文化を発信するまち 平和で豊かな生涯を育むまちを創る 生涯学習・スポーツ 市民の生涯学習・スポーツ活動を促進する P58

	豊かな地域資源を活かした観光を創造する 観光（スポーツコンベンション） 人と資源を活かし 産業の力づよい成長を支えるまち <u>活気に満ちたスポーツ交流のまちづくりをすすめる</u> 施策の方向 スポーツコンベンションシティの推進 施設の整備等 （P114）
--	---

沖縄市都市計画マスタープラン（平成 22 年 3 月 沖縄市）	
性格	
目標期間	本計画は、平成 17 年を基準年とし、おおよそ 20 年後の平成 37 年（2025 年）を目標年次とする。
施策	
施策の展開	主要な地域資源 ・ 沖縄市コザ運動公園 （3） 緑と水の方針 未整備公園である（仮称）桃山公園の整備を促進する。 コザ運動公園の利活用促進を図るとともに、八重島公園、コザ運動公園、こどもの国公園を連結する緑のトライアングルを形成する。

沖縄市中心市街地活性化基本計画	
性格	「コザらしい生活ができるまち～商店街から交流街～」を活性化のテーマに、音楽・芸能など、豊富な地域資源を積極的に活用し、商店街の活性化をはじめ、住環境と都市機能の向上により、暮らしやすく、にぎわいのあるまちづくりを目指し、様々な事業に取り組んでいる。
目標期間	平成 22 年 3 月から平成 27 年 3 月末までの 5 年間とする ●計画区域：国道 330 号を軸として、コザ十字路～胡屋十字路～プラザハウスにかけた約 237.5ha
施策	コザらしい生活ができるまち ～商店街から交流街～ コザ文化の継承と発展によるにぎわいづくり 住む人の目線での良好な生活空間の創出
施策の展開	中心市街地の活性化に関する基本的な方針 P48～P49 コザ運動公園地域には陸上競技場、体育館、野球場、武道館、トレーニングルーム等様々な体育施設を有した「コザ運動公園」は、都市公園として健康増進施設や娯楽施設が設置されており、市民の健康増進やレクリエーション等に寄与する施設として重要な都市福利機能を有している。 [3]数値目標 （4）「コザ運動公園体育館施設整備事業」による効果（P75） 当該施設は、陸上競技場、体育館、野球場、トレーニングルームなどの様々なスポーツ施設が整備された都市公園であり、健康増進や娯楽施設として中心市街地内の人を含め多くの市民が利用している。中心市街地の活性化を推進するにあたっては、さらなる付加価値の向上による利便性をたかめるために、老朽化した体育館及び野球場の建替え、（仮称）多目的センターの建設、野外ステージの改修を実施する。目標値の設定については、市民が様々な用途で利用できる体育館や多目的センターの建替え及び建設によって利用者の増加が見込まれる当該施設の年間利用者とする。体育館の利用者については、現体育館と建替えによる新体育館における施設規模と年間利用者実績との関係、（仮称）多目的センターの利用者については同機能を有した沖縄県総合運動公園内多目的ドームにおける施設規模と年間利用実績との関係により、5 年後の目標値を以下の通りにする。 《事業における効果》 a 体育館の建替えによる効果体育館の建替えにより、現況バスケットボールコート 2 面分の規模に対して新体育館は 3 面を有し、冷房も完備された大規模施設となる。規模拡大による利用者の増加及び冷房完備により各種プロスポーツやアマチュアスポーツの九州・全国大会の試合会場としての活用が期待できる。 写真 2 枚 新体育館の完成イメージ b （仮称）多目的センターの建設による効果

	当該施設は、体育館のサブアリーナの活用や野外スポーツの雨天時での活用、さらにはスポーツレクリエーション以外の様々な用途に活用できる施設として整備される。 目標値の設定については、同機能を有する沖縄県総合運動公園内のレクドームにおける年間利用者と施設規模により以下のとおり算出する。 5.都市福利施設を整備する事業に関する事項 [2]具体的事業の内容 (2) ①認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した特別措置に関連する事業 P91 ○事業名 コザ運動公園体育施設整備事業 ○実施期間 H20～H25 ○内容 老朽化した体育館や野球場の改築及び（仮称）多目的センターの新設 ○位置づけ （前略）国内外の各種スポーツを大会等を誘致開催し交流の拠点として推進する事業である。 ○必要性 老朽化した野球場のリニューアルを行い、「沖縄市人にやさしいまちづくり環境整備網」に基づいた野球場として改築することで、市民が等しく安全で快適にスポーツレクリエーション活動が行える場所を提供でき、健康増進が図られ、誰もが居心地の良いまちづくりを実現する上で必要である。 P121 ○沖縄市中心市街地循環コミュニティバス事業 ミュージックタウンとこどもの国、コザ運動公園の回遊性を高めるためのコミュニティバス事業 ○実施時期 H22～ ○位置付け 中心市街地において中心拠点となる胡屋地区、コザ運動公園、市民会館、こどもの国及びミュージックタウンを結ぶ交通機能としてのコミュニティバスの事業化の可能性を探るため、実証実験を行い、実施主体の検討会を含めた事業化を目指し、中心部の回遊性を高める事業として位置づける。 ○ 必要性 コミュニティバスは、沖縄市の中心地の飲食店やライブハウスなどの情報提供及びこどもの国琉球弧の動物の資料展示やエイサーパナーの展示など本市の持つ地域文化・芸能等の魅力を発信し、来街者・市民に対する情報発信機能と中心市街地への回遊性を誘導する事業として必要である。
--	---

沖縄市スポーツ推進計画（平成 26 年 3 月 沖縄市教育委員会）	
性格	本計画は沖縄市がスポーツを推進していくための基本的な計画であり、本市のスポーツ関連事業をはじめ、体を動かす（ウォーキングやダンス等）や遊びの要素を取り入れながらスポーツとして行われるレクリエーション、健康な体づくりに資する取り組みも含め対象として扱う。 また、行政のみでは実現しなことから、市民やスポーツ団体等の参画のもと推進していくものとする。
目標期間	平成 26 年度から平成 35 年度の 10 年計画とし、社会情勢の変化等により、必要に応じて中間年度で見直しを行うものとする。
施策	
施策の展開	5. 基本理念 本市は、『スポーツコンベンションシティ宣言』に基づき、市民ぐるみでスポーツを通じた『身体づくり、人づくり、仲間づくり』～自分らしく楽しみ、活力と教官に満ちたスポーツ交流のまちづくり～ 6. 基本方針 (1) 生涯スポーツの振興 (2) 競技スポーツの振興 (3) <u>スポーツツーリズムの振興</u> 7. 基本目標 目標 1. スポーツと身近に触れ合える環境づくり・きっかけづくりの推進 （前略）さらにスポーツ活動の拠点である沖縄市総合運動公園（コザ運動公園）について施設の整備・充実及び利用促進を図る。 Ⅱ. 各論 1. スポーツと身近に触れ合える環境づくり・きっかけづくりの推進

	(2) スポーツを楽しむことのできる環境整備 ①スポーツ施設の整備推進 本市におけるスポーツ活動の拠点である「沖縄市立総合運動公園（コザ運動公園）」の整備・充実を図る。具体的にはサッカー場の人工芝整備、多目的広場、庭球場、水泳プールの整備、駐車場不足の解消に向けた働きかけ等に取り組む。 <主な取り組み> サッカー場、多目的広場、庭球場、水泳プールの整備、駐車場不足の解消に向けた関係部署への働きかけ Ⅲ .計画の推進に向けて 1. 沖縄市の運動・スポーツ活動に関する現状 (2) 運動・スポーツ関連施設等の概要及び利用状況等 1) 主な運動・スポーツ関連施設の概要及び利用状況等 ①沖縄市総合運動場
--	--

沖縄市教育振興基本計画（平成 24 年 3 月）	
性格	この計画は市の最上位計画である第 4 次沖縄市総合計画前期基本計画で示された基本方向及び施策との整合性を図ることを原則とし、国・県の教育振興基本計画なども参酌し、本市教育行政のこれまでの現状や課題を把握したうえで今後の基本方向および施策を体系化していくものとする。
目標期間	平成 24 年度から平成 28 年度までの 5 か年とする
施策	
施策の展開	第 2 章 基本方向および施策 基本方向 1 生涯学習・スポーツの推進と文化財の保護・活用 2. 施策 (4) スポーツ施設の整備（P5） 野球場・屋内練習場の建替えや陸上競技場の改修、スポーツ用具の搬入など、コザ運動公園スポーツ施設等の整備・充実を図り、スポーツコンベンションシティを推進する。 3. 主な事業や取り組み ・沖縄市野球場整備、（仮称）沖縄市多目的広場整備事業

沖縄市観光戦略プラン チャンプルー文化の薫り漂うコザ物語 報告書 平成 24 年 3 月	
性格	これまで以上の良好で時代の流れに即した観光環境の整備の為、沖縄市観光振興計画を見直し、策定。地域資源を活かした創造的な観光を推進するための指針となるプランであり、持続的に実践し、市民や関係団体、事務所行政などが一体となって行うためのものである。
目標期間	平成 24 年～平成 28 年までの 5 年間 行政において中間年度等で指標のフォローアップを行い、必要に応じて目標値の見直しなどを検討する。
施策	「チャンプルー文化の薫り漂うコザ物語」をコンセプトに 5 つの基本戦略のもと観光を推進する ・観光プロモーションの推進 ・魅力ある観光メニューの展開 ・沖縄市ブランドの発信 ・人と環境にやさしい観光地づくり ・推進体制の強化
施策の展開	5 つの基本戦略のもと、以下の重点的な取り組みを展開していく施策を重点プロジェクトとして位置づけ、進めていく。 ・エイサーの魅力を活かした観光の推進 ・スポーツコンベンションシティの推進 ・音楽・文化と連動した観光の推進

沖縄市地域防災計画	
性格	沖縄市地域防災計画は、災害対策基本法第 4 2 条の規定に基づく法定計画であり、市長を会長とする沖縄市防災会議が定めるものである。また、国の「防災基本計画」、県の「沖縄県地域防災計画」と連携した地域計画である。

	沖縄県が平成19年3月に修正を行っており、本市においても、見直しや修正をすすめている。
目標期間	当該市町村の地域に係る市町村地域防災計画を作成し、及び毎年市町村地域防災計画に検討を加え、必要があると認めるときは、これを修正しなければならない。(災害対策法第四十二条)
施策	
施策の展開	市域の災害予防、災害応急対策及びその事前対策、災害復旧に関する事項を定め、防災活動を総合的かつ計画的に実施することにより、災害による被害の軽減を図り、市民の生命、財産を保護するとともに、社会秩序の維持及び公共の福祉に資することを目的としている。(沖縄市のくらし・生活情報の質問『地域の防災計画について知りたい』の回答より転載)

注) 上位関連計画について、本基本構想と関連性の強い部分にアンダーラインを引いている。

資料2 関連団体意向調査(ヒアリング詳細)

▽沖縄市体育協会

- ・那覇、うるま、浦添などには相撲場（土俵）があるが沖縄市はなく、将来の育成の為に、大相撲の沖縄場所ができる施設をという強い要望がある。それにはすり鉢状になっているステージが一番良い。費用対効果を考えると興行がないとペイできない。大相撲いいですよ。
- ・体育館横の多目的広場を市内の幼稚園児たちも運動会やお遊戯の練習等でよく使っている。幼稚園の先生がたにも要望を聞いているので提案していきたいと思う。
- ・野球場で 1 万人規模のコンサートの予定もある。音漏れも心配されたが既にエイサーまつりもやっており、地域には協力要請や告知し、2～3 時間なので問題ないと思う。
- ・現在、興行として利用しているのは、琉球キングス、琉球コラソンと K1 のような格闘技がある。
- ・他にも利用したいといろんな形で話があるが、体育館は収容人数が少なくペイできないと言われる。1 万人収容できれば十分興行として成立すると思う。
- ・1 万人規模のコンサートは、本土からのプロモーターが来て、那覇か沖縄市か迷っていたが、野球場にある大型ビジョンが決め手になった。
- ・1 万人規模施設ができれば大相撲を呼べるし、沖縄場所も夢ではない。こけら落としで大相撲をやったらどうか。練習場もつくってもらえれば、いろんな形で利用者は多いと思う。沖縄相撲、奉納相撲の復活、国技相撲の広がりにつながる。
- ・駐車場について、キングス 3 千人と F C 琉球千人で両方がかち合うと 4 千人。しんきんスタジアムは、キャパが 1 万 5 千人。それに見合う駐車場を作りつつ、周辺の駐車場も利用してもらおう。近くの病院、コリンザ、沖縄市民会館の駐車場等からピストンも検討し、ある程度施設内で賄えればいい。今の規模で 2 千台収容できれば上等。
- ・来年春にはライカムにイオンモールができるので、そこからお客さんをここに呼ぶ事業が必要。手をこまねいているのではなく、チャンスだと思い利用方策を考えるべき。
- ・体育施設の利用者は多く、逆に場所がないくらい。使いたい方は多いが、現在は使えない状態である。土日は、バスケやイベントなど、平日は区分けしているような競技の方が使えるようにすれば、ものすごく、利用者が増えるのではないかな。
- ・演出、仕掛けは広島スタジアムがいい。関東あたりから女性客を招待したりなど、いろいろ工夫があるようだ。あちらも市民球場で広島カープが指定管理者。優先的にカープが使い、社会人も市民も使っている。
- ・新しく作るアリーナも通常は一般の方も使い、それだけじゃ、ペイできないので、費用対効果を考え、興行もやってもらおう。そとにどんどん PR して、興行をどんどん打つということが大切だと思う。
- ・県内だけでなく、県外や周辺アジア地域からの誘客を考えないといけない。昔は、日本から台湾に出かけたが、今はあちらから多くがやってくる。スポーツの交流もすでにある。また、台湾でビアフェスタも開催したし、今度は、台湾の物産展などを沖縄で開催するのもいいと思う。
- ・ここには大学、実業団など毎年四十余の合宿が入る。場所がいいというのと、公認の陸上競技場は沖縄には二つしかなく、ここと県総合であるため。彼らは、すべて沖縄市内で宿泊します。トレーニングジムがあり、施設が充実している。ドームができれば完璧。ここほど、施設がそろっているところは県内にはない。悩みは駐車場不足の問題。
- ・利用について毎年 2 月に調整会議があり、そこで年間のスケジュールが決まる。だいたい、1 年前に決まる。
- ・球場は夏は余力が無いほど埋まっている。冬は、大学も入るし、広島カープが入る。使いたい時には、芝の整備期間をずらして使ってもらおうなどの工夫をする。
- ・カープが入るひと月前からは、芝の整備や土の入れ替えなど整備期間に充てられる。
- ・整備は広島カープから専門の方が来て一緒にあたる。我々も、毎年、広島カープに研修生を派遣し、芝の管理や土のことなどを学んでおり、芝マイスターを当施設で雇用しており芝はきれい。プロ仕様の施設になると、それなりの技術者を育てないといけない。
- ・県が音頭を取る公益財団 日本体育施設協会というのがあってそこで横のつながりもある。取りまとめ役の株式会社トラステックというところで会合を開く。今はスポーツ、体育施設だけの協会だが、こうしたアリーナができると、興行なども考えたアリーナの協議会ができると思う。器ができればそうしたこともやっていくだろう。

▽沖縄市観光協会

- ・立地条件としては、コザ運動公園は県下ナンバーワンといわれている。bj リーグでも全国で一番集客の高い会場でもある体育館。核になる施設がもう一つ増え、間違いなく、経済効果も高まっていく。
- ・このエリアで観客などに対する十分な駐車場をケアする必要はないと思っている。ピストンバスを街から

出すとしたらその始発の場所に人が来るわけだから、駐車場は散らした方が、近隣周辺の混雑を避けられる。1万人規模のアリーナ施設をつくるのであれば、バス停も必要。

- ・施設を運営するトップの人選など、これまでの施設管理とは異なる発想で考えるべき。
- ・施設の基準は、すでにアリーナ協議会が出しているアリーナ標準がある。2020年の東京オリンピックに向けて、フットサルも日本開催が決まった。計画のアリーナが2020年に間に合うのであれば、フットサルのワールドカップだって誘致しようと思えば出来る。
- ・どんなイベントができそうかという質問はナンセンス、いくらでもある。ただ、管理や運営側をどんなところを持ってくるかが問題。世界の室内スポーツを誘致してくるプロモーターがいる。プロレスでも、プロモーターがいるわけだから、そういう会社が受ければ、運営面も大丈夫ではないか。
- ・観光協会として、並行して進めようと思うのは、アリーナ、サーキットの構想、また東部海浜のこともあるので、沖縄市全域を「スポーツ特区」として網をかぶせよう。それにより管理する企業に税制優遇等のアドバンテージがあれば、いい企業が来てここを管理しようかということになる。東部海浜でもしようかということになる。
- ・いま、特区構想ということで、金融特区とか、フード特区とか、いろんな構想があるが、「スポーツ特区」は一つもなく、それを沖縄市は狙っていこうということである。
- ・アリーナをつくることに関しては、いろんな資料を基に出来ると思う。作った後、運営する企業を、どれだけ力のあるところと組めるか。そのためには、Sクラス、国際クラスのものができるものをつくるのか。
- ・いま、ゼビオアリーナが稼働率いいのかな？ゼビオはスポーツショップなので、そういう関連で利用する団体とつながりがあるのだと思う。東京ドームだって、今、ジャイアンツという核のあるチームがあって、それでも相当数の自主事業をうっている。
- ・bjリーグの人気があるのは、そのあたりの演出づくり。ものすごく近場で見れて、臨場感がある。キングスの試合を見れば、何も考えることはないと思う。彼らは、ラスベガスとか、調査してやっていると思う。
- ・日本の企業でなくてもいい、アメリカのスポーツなどのエンターテインメント専門の企業でもひっぱりて来た方がノウハウもついてくるだろうから、沖縄市の子供たちの人材育成にもつながっていくと思う。スポーツメーカーのアンダーアーマーの日本代理店の社長とか、そういう企業とツテを探し、ひっぱりて来れるのではないかな。
- ・極東のディズニーの統括のトップは、超沖縄大好き社長。元の沖縄ペプシの社長を務めていた人である。沖縄で実績伸ばして、九州に行き、ディズニーに引っ張られて、ディズニーでも実績を伸ばしてアジアの統括になった。彼が今回の「アナと雪の女王」を手掛けた。余談だが、これまでディズニーというのは、本場で作った音源というのは変えられなかったが、今回それぞれの上映国のシンガーが歌った。それを仕掛けたのがその方である。それで、各国でヒットした。

▽沖縄商工会議所

- ・10,000人の大規模な収容施設を建設する為、県内外からの集客による経済効果を大いに期待したい。
- ・多くの人々が集う為、駐車場の確保（4,000台以上収容）、交通アクセスの整備を検討する必要がある。
- ・スポーツイベント、音楽イベント、講演会、セミナー等、多様な催しに対応できる施設を期待したい。
- ・運営は公設・民営の方法が望ましい。
- ・駐車場対策を十分にとらないと、せっかく大きな施設を使っても、顧客が来ない可能性がある。また、商店街からシャトルバスを走行させるなど、沖縄市の中心市街地への顧客の連動を図る必要がある。現状では宿泊施設、飲食などの経済効果があるが、物販など小売業には直接的な影響は少ないと感じる。
- ・平成22年度より中心市街地において数百名程度の音楽イベント（プロムナードコンサート）を年間15回開催しているが、年々観客が多くなっている。
- ・スポーツイベント、音楽イベント、講演会、セミナー等も開催できる機能の機械を整備してもらいたい。
- ・1回につき10,000人の集客とし、年間100回以上集まることを望みます。（全ての週末に稼働）
- ・懸念は駐車場対策です。現在のコザ総合運動公園内で利用率の低い施設の駐車場への転用も検討してはいかがでしょうか？（イベント実施時のみ目的外使用などの柔軟な対応）

▽まちづくり NPO コザまち社中

- ・コザ運動公園は中心市街地活性化基本計画にも位置づけられ、一つの拠点としてキーになるところ。
- ・現在、子どもたちと行うアート系のイベント、音楽系のイベント、それからダンス系のイベントなどを行っているほか、台湾との文化交流も盛んに行っている。基地内の小学校との交流など、基地から彼等を引っ張り出して行きたいと考えている。
- ・沖縄市には吹奏楽が盛んな学校がたくさんある。自衛隊や米軍の楽団もレベルが高い。
- ・中心市街地との関連で言えば、エイサーの道ジュネーなど効果が大きい。アリーナに周辺の食事場所等の

インフォメーション、サイン的なものがあると良いのではないかな。

- ・隣接する少年院の土地利用も気になる。あちらを宿泊施設にしたら良いのではないかな。
- ・駐車場について、周辺の駐車場とアリーナを結ぶシャトルバスが市街地にもあると良いと思う。
- ・管理者は株式会社などの法人でも良いと思う。たくさん利用されることが市民全体に良い結果を生むと思う。また、アリーナがにぎわえば周辺に出店も考えられる。
- ・夜間の利用（エイサーの練習など）もできるとよいと思う。
- ・コザ運動公園は全体が防災拠点としても重要な場所であるため、災害時に対応できるような施設としても位置づけるべき。

▽沖縄市中心市街地活性化協議会

- ・既にキングスなどの試合の日には駐車場と契約しピストン輸送する等しており、施設の活用により中心市街地への集客効果にも期待が持てる。
- ・駐車場のキャパは他の施設（野球場等）の利用と重なる場合、周辺を含めても限界があるので、全体としてどう対処するのか。
- ・文化観光課、教育委員会など、縦割りにせず全体を俯瞰した施策展開を検討すべき。
- ・経済効果を期待するのであれば波及効果のある付帯産業をどうするか考えなければならない。1次産業、2次産業も含めてあるべき。
- ・既存の野球場等でもコンサートは可能。施設にはプロモート力が必要。また、そのための使い勝手の良さ（ウリ）も考えるべき。
- ・施設の建設だけでなく、「この場所に大物アーティストを呼ぶ！」「その為のルートはちゃんとある」「長渕剛とかジャニーズとか、AKBとか呼ぶんです！」「スポーツもキングスやコラソン、ファイナルのステージをここでやるんです！」「どんどん集客するんです！」そのために施設が必要であるというように、目的が明確であれば納得できる。
- ・それでも週末だけなので、どんどんリーグ戦も入れこむ。それで稼働率を上げる。稼働率のパーセンテージなど目標値を明確に。
- ・市は中心市街地に投資するんですから、投資したものの回収方法をどうするのか疑問。こうすることでアリーナの収益で市は儲かるんですという説明であればなるほどと思う。
- ・まず目的を明確にすること。コザ運動公園でないといけない理由がどこにあるのか検証も必要。周辺道路はラッシュ時の混雑による影響もでるだろう。
- ・市内や県内のプロモーターだけでは限界があります。大型のプロモーターを入れるべき。

▽ピースフルラブロックフェスティバル実行委員会

- ・これまで県内では1万人クラスのキャパの施設が無いという悩みがあり、期待は大きい。
- ・音市場では設備機材が全部揃っているという条件があるが、施設の設備を揃え過ぎると管理が大変。
- ・アーティストによってはツアーの機材をトラックで年間リースし、宣伝しながらツアーを回るなどもあるため、搬入口は11tトラックの出入りを想定した設計が必須。
- ・コンサートについては、離島県の沖縄までドームツアーをやってくるかどうか、プロモーターやイベンターなどの事務所がどう判断するかによる。それ以外の所で稼働をどう確保するかということだと思う。
- ・コンサートだけに特化するのではなく、いわゆる MICE 事業やコンテンツの見本市などもできる施設、バスケットもボクシングもできる臨機応変さが必要。
- ・フラットな施設であればランニングコストもかからない。スペースはあるので必要な機材は持って来てくださいよということでもいい。
- ・宿泊施設について、県内で賄えるのかという危惧もある。他県では県境をまたいで協力要請している所もある。
- ・1万人から3000人くらいの規模まで、客席づくりのバリエーション（テーブル配置やスタンディングなど）も可能につくりとするなど運営にはバランス感覚が必要。
- ・指定管理者制度で自治体が条例に定めるが、利用予約は3年前からとか4年前など柔軟な受付対応にしないと困ると思う。
- ・ネーミングライツの販売なども含め民間に任せの方が良いが、対応できる事業者がいるかどうか不安。
- ・いち早く沖縄市に1万人規模のアリーナができることを打ち出して、1日も早く、有名アーティストにこの施設を使った公演をやってもらおうべき。ドリカムとかスゴいでしょうね。
- ・音楽型のイベントを優先にするか、スポーツコンベンション型のものを優先していくのか、施設の基本方針が重要になってくるかもしれない。
- ・音市場でもバスケットとコンサートなど複合エンターテインメントを企画していて使い勝手が良い。格闘技等にも使い良い。ただ、1万人クラスになるとキャパを埋めるのが大変。

- ・アリーナになると、電気代が大変だと思う。音市場でだいたい月に 90 万円程度。温度と湿度の管理が必要で楽器庫の空調は切れない。
- ・地域性を踏まえた差別化が必要。ここに来てわざわざ使いたくなるようなアリーナにすること。
- ・アリーナへ車でアクセスではなく、遊歩道とかによる動線の整備があればアリーナだけでなく周辺への波及も見込めるのではないか。
- ・我々はミュージックタウンと銘打っているが、音楽に特化した施設であるという意識は何年も前からない。バスケもボクシングもプロレスもやる。全てエンターテインメントとして捉えないと広がらない。

▽沖縄コンベンションビューロー

- ・県内ではコンベンションセンターを筆頭に、体育施設 31 施設、武道館 11 施設、屋内運動場 14 施設、野球場 46 施設、サッカー場 31 施設、陸上競技場 45 施設と合計 179 施設あり、それらがイベント会場、コンサート会場となり得る。
- ・豊見城総合公園市民体育館（3000 人規模）、北中城村アリーナ計画（3000 人規模）、沖縄市（1 万人規模）、浦添市（4000 人規模）、そして沖縄県が 2 万人規模の MICE 施設を計画している状況。
- ・県はあと 6 年でビジットおきなわ計画の最終年度となり、目標値の 1000 万人まで観光客をあと 300 万人増やす予定で動いている。このうち外国人観光客が 200 万人。
- ・社会基盤としては、那覇空港の第 2 滑走路、県内の道路計画なども進み、受入れ態勢も整うと思われる。これら、アクセス手段の整備も併せて考えるべき。
- ・アリーナの需要は県内客を見込むのか、県外からのお客を見込むのか、県外の場合、ホテルは現在、10 万人泊がキャパシティと言われている。ヒルトンや本部オリオン、ハイアットなど増えることを考えればまだ少し余裕も出る。
- ・問題は規模だと思う。みんな五千名以下の規模では競合地域との誘致競争となってしまう。
- ・365 日、54 週のうち金・土・日はコンサート等が多く、コンベンションセンターは満杯。では月曜日から木曜日までの利用をどうするか。また、客席数でなくアリーナそのものの面積がコンベンションセンターに類似すればまた競合するだけである。
- ・床を入れ替える施設もあるが、スポーツコートを入れてそれほど費用をかけずに多用途に展開できる。
- ・レストラン機能も充実させるとしたら、ガス管や施設内の給排水もできると便利である。
- ・コンベンションの電気代は年間 8000 万円程度、LED や空調、開口部の設計など冷房効率の検討や電気光熱費を抑える仕組みづくりは大切。昼間もコンサートするので遮光性も必要。
- ・沖縄市の場合、産業とリンクするのか、スポーツコンベンションなのでスポーツに特化するのか。県が産業の展示場を狙っているのであれば、沖縄市はスポーツに特化するということを断言するのも手かなと思う。
- ・音響、照明等はすぐに古くなる。県内のイベント会社が持っているので、公共は買い置きしないで、レンタルする手もある。昔のスピーカーは拡散するタイプで音が響くと言われた。
- ・駐車場をいらないと思ったら間違いです。自前で用意しても足りない時は近隣の駐車場を借りるのも手で、商業施設の駐車場に協力してもらっている。商業施設に車を止めるとお買物してくれる可能性もある。新都心等で効果を上げているとのことで反対はしていません。
- ・稼働率と料金について、コンベンションセンターは結論的には黒字で指定管理料も年々減っている。催事やコンサートの場合、2 日間の本番に対し、前準備 3 日、撤収 1 日で大体 1 週間借りるが準備期間料金とこのがあり、安くしている。
- ・こうした施設は市民のために作られがち。市民が利用しない（稼働率が低い）とわかってから提供しますよとなる。そうではなくて、最初から興行に向けたコンセプトを作って欲しい。
- ・コンベンションセンターは外客を呼ぶ為に作った施設なので、国際会議は 3 年前から、国内会議は 2 年前から呼んでいる。アリーナコンサートを 3 年前から誘致しないと、絶対に来ない。
- ・大切なことが 3 つある。どれくらいの規模かということも大切だが、作った後の話。予約のシステムも大事、そしてこのアリーナをどうプロモーションしていくかというプロモーション方法とどこまで多言語化に対応できるかが大切である。予約システムは何年先まで予約ができるかとかいうこと、プロモーションの方法というのは、スポーツ施設とかもそうだが、施設の管理運営が仕事でこれをどういうふうを活用してもらうかというのは、受け身の体制のところが多い。
- ・沖縄市だと、観光課のほうと、うまく連動してどういうふうな施設を使ってもらえるかというのをきちんとやるということ。先ほど話したように、今後、海外からの観光客が増えてくると考えた場合、施設を作った時に、表示を日本語だけでなく、英語、中国語、ハングル語、などの表示をする、また、予約を受ける時に、日本語、英語だけでなく、中国語でも受けられるとか。先の話に聞こえるが、作り終わってから、他言語対応をどうする？ということになるから、こうしたことも、合わせて一緒に考えた方が、出来上がった時に、スムーズにいくと思う。
- ・僕らが大阪ドームを借りて、琉球フォーラムやるが、あれは、1 日 1500 万円の使用料がかかる。このような興行とは違うと思うが、しんきんスタジアムの使用料には驚いた。市民の健全な育成が趣旨だという

のはわかるが、完全な赤字だなと思った。

- ・ 施設を建設するだけでなく、どう運営したら赤字が出ないかなどの運営方法も含め、ランニングコストも考えて作ってほしい。

▽ピーエムエージェンシー

- ・ 一番大きなコンサートはコンベンションセンター展示棟でのもの。3500人～3800人。
- ・ 屋外では安室奈美恵さんのとき等に1万5千人～2万人程度。
- ・ 屋内で1万人規模であれば、暑いときや雨天時なども利用したいと考える。
- ・ アーティストの動きにもよるが、安室ちゃんのような規模は年に1回程度行っている。
- ・ ミスターチルドレンはいつも野外だが今回屋内でやった。コンベンションセンターの展示棟でやれるビッグなアーティストは、1万人規模の施設でもいけると思う。
- ・ 西原マリンパークで福山雅治のコンサートを1日1万5千人の2日間開催で3万人。内訳予測は、県内5千人ずつの2日で1万人。残り2万人は本土からのツアー客を見込んでのものだった。
- ・ こうしたビッグアーティストは沖縄県内だけでは考えず、ツアー客など入れるなどの仕込みが必要。
- ・ イベント会場の環境によるが事前申し込みで移動に主催側が準備した有料バスを使う所もある。事前にバスチケットを購入できるシステムにしているところもある。
- ・ モンパチをやるときは途中の道路の広さの問題もあり、大型バスでなくマイクロバスでピストンした。周辺の道路環境も大事。
- ・ 箱はつくったソフトもある。しかし、駐車場もないと大変困る。その辺の整理をしてくれないと困る。
- ・ コンベンションセンターは隣の宜野湾マリナーの駐車場が有料で止められ、向かいの商業施設が立体駐車場を開放し、コンベンションの指定にしてくれている。互いの相乗効果があるようだ。
- ・ つくるのなら立体駐車場もセットであればいいと思う。駐車場がなくて告知ができない、お客さんが来れない、不安というのがイベントをする場合は困る。一万人規模のイベントをするならバイトや関係者を含めて、5千台の駐車ができる算段というか、心つもりは必要だと思う。
- ・ 無い駐車場をつくるのではなく、あるものをうまく利用する。それこそ音市場駐車場使ったら割引ですよとか。曜日にもよるが、こどもの国の駐車場を開放するとか、市役所、コリンザ周辺にある駐車場からピストン運送することも考えられる。駐車場が隣接していなくても、そうした周辺の駐車場を利用してピストンする場合など、仕組みを考える人にインフォメーションを徹底すればいい。箱に魅力があれば主催者で考える。全部が近くにあると出る時に渋滞するので、少し離れたところにあるのもいい。
- ・ 沖縄市に滞在させたい場合、食などおすすめの場所がすぐにでてこない。名物・名所などすぐに紹介できる魅力的なモノを意識的に作っていかなくてはいけないのでは？
- ・ ソフトはビューローさんなどと協力して県内・国内だけでなく、アジアなども市場に取り込んでいったらいいのではないかな。

▽琉球ゴールデンキングス

- ・ 人が動くことで、経済効果が生まれるという意味からすれば、大人数を収容集客できる施設があるということが、地域に経済効果を生んでいくということになると思っている。
- ・ キングスは年間30試合ぐらいホームゲームを沖縄で開催しているが、那覇市であったり、沖縄市であったり様々な場所でやっている。集客をメインとするのがアリーナだと思っているので、そういう施設でなら、集中的に試合が開催できると思っている。
- ・ キングスは、「沖縄をもっと元気に」を使命としており、我々が儲かるというよりは、我々がもっと地域に還元できることがあると思う。大きな施設が出来ることで、より多くのお客さんを収容でき、より多くの人に楽しみを提供できる場ができますし、イベントとして成功することで、来場者の方へのサービスの質も上げることができるといういい循環が生まれていく。最終的に経済効果も生まれていく。こうした好循環が生まれることが本当の意味のメリットだと思う。
- ・ 宿泊施設など付帯施設が必要というが、モノには進める順序があり、プロジェクトごとや土地ごとに違うと思う。北谷などにもヒルトンなどのいいホテル群があるので、あちらと連動しながら、こちらでイベントをコンスタントにやり、宿泊施設が足りないということになれば、ホテルを誘致すればいいと思う。
- ・ まずは特定の目的をいくつか想定してアリーナをつくるのが大切だと思う。八方美人になると誰からも使い方が中途半端になる。無限に多目的になってしまうと、無目的になる。
- ・ 数万人規模の大規模展示場というのは巨大な倉庫のようなもの。集客施設は客席をつくらなきゃいけない。床があることとイスがあることは、実は相反する。イベント主催者が利用料とは別に客席の設営料を支払う状況が発生してしまっている。
- ・ 施設の在り方としては、概念、コンセプトを体育館と明確に分けなければいけない。もっと明確に、きち

っと理解しないといけない。

- ・ 体育館というのは、日本全国共通していて、インターハイ（高校総体）と国体のために順番に新しく造ったり、改修したりしている。体育館は競技者のための施設で、主人公は競技者。お客さんと言っても競技者が競技していない時、父兄や関係者などが見る。如何に多くの人が見れるかが集客型のスポーツである。
- ・ とにかく、たくさんの人が入ることが大前提になった導線計画とか、トイレの数が必要で、体育館は1日の長い時間の間に競技の保護者や関係者 100 人ぐらいが入れ替わり立ち代わり使うという感じの導線計画やトイレのつくりや数だが、イベントとなると、イベントの 30 分前からずっと 1 万人きて、ハーフタイムの 10 分とか、20 分の間にみんなで一生懸命におしっこしている。待っている時間や並ばせている時間がもったいない。もっと発展したら、飲食や物販など。そして、終わったら速やかにはけていく。
- ・ 駐車場から出て行く際も、一度に集中する為、幹線道路に出るまでに時間がかかってしまう。こうした交通計画までできれば良いと思う。
- ・ イベントが終わったら、スカッと楽しい気分で行って、ショッピングしたり、食事したりと1日でできることが増えると思う。消費にもつながる。
- ・ 短時間に人が集まって捌けるということ、シャトルバスだけで解決しようというのはどうかと思う。年に1度のイベントであれば頑張ってくれるかもしれないが、まちを活性化させようとするなら、定期的に人が来ること。
- ・ アメリカなどはプロスポーツチームが盛んで、経済に貢献している。年間 30 試合のホームゲームに反復して何度もくるから、あそこの飲食に行こうとなる。
- ・ いろんなところで試合しますが、コザ運動公園はまだ、道が広く、すぐにインターにいけるし、つくりはいい。こうしたところのアクセスが重要になってくる。
- ・ 重要なのは、お客様を楽しませること。我々はキングスの試合をスポーティなエンターテインメントと定義している。競技というより、エンターテインメントのコンテンツの一つとして、プロバスケットボールをやっている、それを如何にショーアップしてお客さんにより楽しんでもいただけるかということを考えている。
- ・ 設備面では大きなトレーラーが丸ごと入れて、速やかに出られる。でも、設備がゼロであっては困る。フルスペックの音楽イベントに設備を合わせる必要はないが、設営・撤収がしやすいような環境にすべき。設備を入れない、持ち込まないイベントに関しては、ミニマムでもすばらしいものができるようなベーシックな設備があればいい。
- ・ 逆に言えば、設営撤収しないで、付随の設備でパッとできるもの。音楽コンサートができる素晴らしい設備ではないけれど、普通のイベントなら成り立つベーシックなもの。
- ・ 空調はマストだと思いますが、フルスペックの音響など入れても、いまは昔のスピーカーの十分の一くらい大きさ、数段上のクオリティーになっていたりするので、そういうものは、施設が持つというのはあまり意味がない。投資効率が悪い。
- ・ 時代でいろんなものが変わっていく、設備投資という意味で一番効率のいいようなものを探していくことが重要かと思う。
- ・ 床は文句なしでコンクリートの土間しかない。イベントでお客様がたくさん入るなど、多目的に利用できる。バスケットはいちイベントなので、その時に床を敷けばいい。アメリカのアリーナとかもコンクリート製がスタンダードです。
- ・ 運営について、施設の稼働率を上げるために、設営撤収を同じ日にやっているのが素晴らしいアリーナ。横浜アリーナなどは、すごくこだわっている。搬入口を2カ所にし、こちらから設営側が入り、撤収はあちら側から出ていくというようなことを一度にやっている施設もある。
- ・ 搬出して破損のチェックして1日が終わり、翌日から設営すると、1日無駄になる。誰の無駄かという、指定管理者というが、それは税金から出ているわけだから、最終的な経済効果とか、このアリーナがもっと稼働することで得られる潜在的な効果を一番得られるのは市民ですから、運営者がより経済的合理性のある運営をしていくというのがすごく大切だと思います。
- ・ 年間の利用見込みについて、難しいが一度に 8000 人～1 万人の見込みで、我々年間 30 試合ぐらいやるとすると、年間 24 万人から 30 万人ぐらいになる。キングス単体としてその辺の集客は目指していきたいと思っている。
- ・ 年間 365 日のうち、8 割稼働で、300 日稼働すればいいと思う。平日とか集客が少ないイベントがあるので、全部 1 万人で 300 万人ですと言いたいが無理、まずは年間 100 万人とかを目標に。
- ・ 屋内でこれだけ収容できるのは、沖縄では画期的ではないか。もちろん、エイサーとか、野外コンサートとか、単発で何万人というのがあります。でも、屋外でやっているのと、屋内でやっているのでは、クオリティーが違います。グレードが 5 段階ぐらい違うと思ってい。エイサーで 30 万人というのと、アリーナで 30 万人というのは、お客さん満足度とかがぜんぜん違う。
- ・ 大切なのは、基礎票になる事だと思う。アメリカのアリーナも多目的に使っていますが、イベントは水ものです。ここ 1 週間使いますと言っても、この先、3 年間連続で確保できるかといえば、そうではない。
- ・ コンサートで野外なら 5 万人呼べますといっても、そのアーティストが何年も同じ集客力を持っているか？という、本当に大御所のアーティストしかいない。そういう意味では、地元根差したスポーツチ

ームというのは、年間 30 回とかで、25 万～30 万人ぐらいというボリュームを計算できる。施設に定期的に人が来るようになると、その施設が沖縄市だけでなく、周辺の人はもちろん、那覇の人からも、行きやすい場所、行っていて当たり前の場になっていく。違うコンテンツが来た時、コンサート行こうと思う。また、物理的に遠いというのと、心理的に、行っていない、行きなれていないから遠いと感じる。今、沖縄で市民権を勝ち得ている場所はコンベンションセンターとか、あとは空港とかだと思う。何度か行っているからいける。

- ・ 中規模のメリットもすごくあると思っていて、沖縄のマーケットや規模で、数万人は結構大変だと思う。集客力のあるコンテンツはそんなにない。8 千人ぐらいなら割とポテンシャルがある。
- ・ だって広い空間で 8 千人ぐらいがやっているのと、8 千人満杯の空間で熱気がある空間とでは、イベントの盛り上がりには違いがある。すり鉢状の方が熱気がこもる空間になるので、「あのイベント楽しかった！」とか「なんか、東京で行ったときはよかったのに、沖縄では、いまいちだったな」というのが起りえる。中規模より下がる小規模だと、あんまりメリットがなくて、逆に 3 千人とかでやっている、原価は一緒だが、売り上げが伸ばせない。我々は稼働率常に 110% ぐらいなのに、お客さん、もうちょっと入れられるのと思う。かかっている経費は、全部一緒なんで、3 千人のイベントのところにフルで 5 千人が入ったら、2 千人分の粗利が増えるとなると、それだけ呼べるアーティストのクオリティーが上がったりとかね。いろんなことがあると思う。
- ・ その意味では、断面の設計がすごく重要になると思う。なるべく気積が少ない空間にとか。
- ・ 気積とか、熱気とか。気積というのは体積の量ですし、熱気はそのクオリティの話だと思う、どれだけ、熱狂的な空間かということです。じゃ、ただ気積が小さければいいかというと、そうじゃない。そういう、あたりを観点に入れていけるといい。
- ・ 指定管理者制度の一般的な問題だと思うが、行政が管理者に対して自主事業をやりなさいという。でも、もともと自主事業者じゃないから出来ない。理想はコンテンツホルダーが運営者になること。それが極めて普通。アメリカなどを想像すると、チームがあるから、アリーナがある。
- ・ チームがアリーナの運営をしていて、使っていない時には、他のイベントをやっている。運営者ありきで、いろんなことが起こっているから、冒頭に申し上げたように、合理的に判断される。そういうのを切り離して、はい、建物を作ります、管理者です、イベント主催者です、来場者です。と全部ぶつ切れになっていておかしくなる。運用・運営方法を、設計段階、基本構想段階から、一貫性のあるものにし、これで本気でできるのかと考えるべき。建築家の大先生にオブジェをつくってもらっても仕様がなないです。
- ・ 決定的に大切なのは、イベント主催者もきっちり収益が上がるような仕組み、1 日設営日数が減ったらメリットがふえる。使いやすい、イベント主催者がイベントを誘致しやすい設計にするのは大切だと思う。
- ・ その観点から、いろんなイベントをここでやりたいというような主催者に人気の施設になれば、施設の収益はもちろん上がっていくと思う。やればやるほど赤字になってしまったら困る。施設運営者側もちゃんと、黒字になれるような施設にしてあげれば好循環が生まれていくと思う。
- ・ 経済合理性をベースにすると、より使われるし、より運営もいい。それは、市にとってもハッピー。必要以上に施設の運営費とかで、無駄な税金を使わなくなる。
- ・ 「経済効果を生むための器だ」ということの位置付けでやっていったら、ハードル高いかもしれないが、そういうミッションを上げることで、逆にすべて決めていかなければいけないことの基準になるので。このプロジェクトの根源というか、フィロソフィーの部分としてしっかりしたほうがいいと思う。最初にぶれなかったらいい。
- ・ スポーツの世界で生きていますが、オリンピックやワールドカップなど何十年にいつんのものに、他に使い道がない施設を整備させ、年間何億円の運営費を垂れ流ししている。ロンドンなどは増設してつくり、終わったら取り壊して小さくするぐらいの計画をしている。経済合理性の話になるが、年間ベースで最適化しているハードにできるかというのは重要だと思う。スポーツが税金使いやがってみたい、ことを言われるのが嫌なんです。スポーツは経済を豊かにする、というぐらいの気持ちでやらないと。
- ・ 横浜アリーナも良いですが完璧ではなく、ニュートラルすぎて建物に魂やいぶき、歴史がないのが残念。そういう意味では、広島カープのマツダスタジアムなどは屋根がないけれど、施設としては人がほんとに楽しめる空間を提供していて、かつ、建物にカラーがあってそういうのは、すごく参考になる。試合を見るだけでなく、あそこのボールパークに行ってお遊べる楽しさがある。飲食とかも回遊できるところがあって、野球観戦だけでなく、あの場について、楽しめることがさまざまにあるというのがいい。恋人同士でも、家族でいって寝そべっても観れるところがあったり、すごくいろんな工夫がされていて、おもしろいな～と思っている。
- ・ そうなのが出てくるのは、アメリカのアリーナにもいくつかある。インディアナにあるインディアナペイサーズのバンカーズ・ライフ・フィールドハウスは結構参考にすべきところはあるなと思う。

▽沖縄県サッカー協会

- ・ 現在、県内に「観る」ための施設がないことで、県民のスポーツ文化は「する」スポーツで止まっている。県民市民に新しい視点と経験を与えることができる。
- ・ これまでと決定的に違うのは観る人のための施設であること。県内にはまだこうした施設がないので、観るための施設、つまり「劇場」を作って欲しいと思っている。
- ・ 中に入るときからゲームを見て出るまでの間がずっと劇場として機能するもの。
- ・ F リーグ、V リーグ、bj リーグが一緒になって活用する様なイメージを持っている。どれもお客さんに見てもらってナンボの世界。臨場感があって、目の前でプレイを見ることができるという利点がある。
- ・ 諸室、照明、音響などもお客さんのための施設という観点で作る。さらにピッチの常設及びスポーツコート
の常備、大型ビジョン等の設置が理想。
- ・ 世界大会など、事前のキャンプにも対応できるようにして誘致したいと考えており、日本フットサル連
盟に事前に働きかけることも可能である。
- ・ 演出について、F リーグでもお客さんのためにビジョンを置いて、目の前のプレイをビジョンでリプレ
イが見れるようにするなどできると良いと思う。
- ・ スタジアムではポップコーンや飲食関係もある。こういったところも基本劇場。最初からお客さんが一
緒に楽しめるように配慮した施設であるべき。
- ・ 代々木などは観客席と同じ高さ通路があり、オープンな感じになっている。そして、お客と関係者の
動線をはっきり分けること。
- ・ F リーグではピッチにスポンサー広告などが描いてあるスポーツコートを貼付けて競技をしている。
- ・ 会議室などもある方がいい。ビジネスでの会議室の需要を見込み、稼働させる。
- ・ F リーグにはセントラル開催というものがある。10チームが全部集まって2日間掛けてリーグ戦をす
る。この際、選手のアップやチームの調整等はサブアリーナで行う。リーグ戦等の円滑な運営にサブアリ
ーナは必要となる。
- ・ セントラル開催はこれまで年に1～2回だったが、6カ所ぐらいでやるようになっており、北海道と代々
木は毎年やることになっている。先方としては沖縄でもやりたいという意向を示している。
- ・ サッカーには6月キャンプというものがある。他のスポーツと違って、シーズン中にキャンプを行うた
め、他の競技と競合せずに誘致できるという特性がある。また、韓国とか中国とか寒い地域の冬期キャン
プで日本に来たがっている。日本のチームに引っ張ってもらいたいと考えているようだ。
- ・ ヨーロッパのビックチームがアジアに来てエキシビションマッチをする。僕らとしてもリアルマドリー
ドなどのヨーロッパのチームに来てもらいたいと思っている。
- ・ 関連施設として沖縄市は宿泊施設を整備することを早くやって欲しい。周辺の運動施設とも一体的な利
用を考えてできれば良いと思う。
- ・ 複合型でホテルをセットにするのはどうか。ヨーロッパのスタジアムはみんな複合施設で、例えば老人
ホームが一緒だったり、ホテルが入っていたり、コンベンションが一緒だったり、モールが入っていたり
する。老人ホームはその部屋から試合が見える。孫らがあつまようになる。ビューボックスですよ。食
事や飲み物の提供もあり、試合がはじまったらスタジアム側に移動して観戦するようなスタイルの窓枠の
ついた部屋（VIP席）。
- ・ スタジアムを作る場合はレストランを併設してほしい。ヴィッセルのスタジアムはゴールの真後ろにレ
ストランがある。日本ではまだ主流ではないが、ヨーロッパではそこにビジネスチャンスが発生する。セ
レブやビジネスマンがそこで商談しているような状況。
- ・ お客さんの動線とスタッフ、搬入口をしっかり作っておくべき。国立は5万人入るが、出て行くときは
30分程度で終わる。動線の良さが重要。
- ・ 北中城もアリーナをつくると聞いている。ショッピングモールに停めてもらってイベントが終わったら
買物して帰る。スマートインターチェンジも整備する予定と聞いている。
- ・ どこだったか、地域の特産物を仕掛けている。スタジアムの中に物販を設けて、さらに会場外に屋台等
をすぐ出せるようにするなど。
- ・ F リーグの際は3,000人程度の観客動員となっている。代々木の会場は満杯になるので1万人位は入っ
ている。セントラルであればかなり入ると思う。
- ・ アリーナの規模については国際大会（世界大会）の開催が可能な規模。「アリーナ標準」に基づく整備を
お願いします。その他には選手の安全に配慮し、顧客満足度を念頭に置いた施設
- ・ 運営は各団体（興行主）やスポーツ種別団体との連携をタイムリーにとれる組織を作ること。
- ・ 多目的アリーナの将来的な利用見込みについて、F リーグ→ワールドカップアジア予選→ワールドカッ
プ（2020年に日本開催がある）の順に大きな大会となる。利用率は365日中 340日程度、興行による
観客収容数 8,000／試合程度が理想的。
- ・ イベントのみでなく、一部に市民県民の利用の枠の確保ができるとよい。
- ・ フットサルチームは県内に45チーム程度存在。1部が10チーム、2部が10チーム、3部が南北に
分かれていて合計18チーム、女子が7チーム程度が存在する。

▽琉球コラソン

- ・コラソンの試合に関しては、コザ運動公園の体育館で十分に事足りている。自分たちのリーグ戦に関しては、1万人規模のアリーナは大きすぎると感じる。
- ・リーグ戦はホームでやるのは年間 5～7 試合程度。動員規模は多くて 2500 人程度。沖縄市の体育館ならちょうどいい施設になっているので、われわれがリーグ戦で 1 万人規模の施設を使うということはないかと思う。また、それなりに施設料金もかかる。
- ・コートが 4 面とれたら、我々が自主運営する子供たちの大きな大会も運営できるのかなと思う。1 万人＝今の 4 倍くらいだと思うので大会に使う規模としてはちょうどいいと思う。
- ・僕たちはまだ、ビーチハンドボールという大会を自主運営しているが、体育館などを使った大会の運営はやっていない。すぐではないが今後、大会などの運営もやっていこうと思っている。
- ・2 年前には、香港に呼んでもらって試合をした。計画のアリーナのような大きさではないはないが、コート 1 面しかないような場所で、1 日中稼働させているというパターンでした。
- ・集客に合わせた施設でやるのが、見栄え的にも一番いい。一番大きな大会でも 5000 人程度の集客である。
- ・リーグ戦だと、僕らとの対戦相手しか来ないわけですが、サッカーでいうナビスコカップのようなトーナメントのハンドボール大会があり、12 月にサッカーでいう天皇杯がある。どちらもトーナメントの大会で、これが来れば、お客さんがたくさん入るだろう。1 日に何試合もあり、だいたい 2 コートを使って行われる。横並びで 2 つのコートでおこない、決勝、準決勝などは、センターに 1 コートつくり、行うという形である。
- ・沖縄市の体育館はどこも使いやすいので、予約の時期がだぶってしまう。我々は試合に日時が決定するのはわりと早く半年前には決定する。大きくなればなるほど、施設使用料が上がる。また、一般とアマチュア、プロでも施設使用料が違う。地域の方々が使うのは安く抑えて、スポーツチームからは、結構高い金額が請求されてしまうので、そこは市に後援をお願いするなどして抑えています。それでも、通常の施設利用料の 10 倍くらいになっている。施設が大きくなると結構な金額になっていくのではないかな。
- ・我々が今、一番使いやすいのは、コザ運動公園の体育館です。まだ、少し入るので、ここをいっぱいにしてから、次の段階に行こうとしている。ぎりぎり入れて 3500 人ぐらいです。我々はいままでの 1 試合動員最高が 2400 人くらいなので、少し余裕がある。
- ・集客数の増加について、2 年前にどーんと増えた。それから今までの 2 年は安定していて、多い日に 2 千ちょい。少なくとも 1500 人弱。1 千人をわることはこの 2 年間はなくなりました。うちが目指すのは平均 2000 人程度。ちょうど、沖縄市の体育館が使いやすいサイズである。別にここで止まるわけではなく、今後も伸ばしていきたい。キングスを見ていても 3000 人に上げるまでに何が必要だろうと考える。一気に 4 倍にはならないから、少しずつ動員を上げていきたい。
- ・海外からチームを呼んだときに、海外のお客さんが来るかどうかということだが、多少はくるだろうと思う。例えば、海外からすごいスーパーチームが来ても、一般の人からすれば、ハンドボールのチームはわからないですよ。サッカーでレアル・マドリードが来たら本土からも来ると思うが、ハンドボールのヨーロッパチームを知っている人は観たいと思うだろうが、一般の人はどうかな？観戦型のハンドボールの試合で、1 万人を動員するのは難しいと思う。
- ・参加型だと、また別である。今年の 8 月にマスターズという 40 歳以上の大会が、沖縄であって、結構な数のチームが沖縄にきていて、会場も浦添、東風平、奥武山、浦添の外の 4 会場を使って 3 日くらいやった。こうした大会を、1 万人規模のアリーナでどーんとやれば、構造的には使いやすいと思う。移動もなく、非常に盛り上がると思う。
- ・県の JOC というジュニアオリンピックカップという全国の中学選抜チームの大会が沖縄で 5 年くらいやるのが決まっている。浦添が主になって取りに行っているが、浦添だけでは回しきれないので、こうした施設で連携があったらいいんじゃないかなと思う。
- ・いま、中部地区の小学校の強化大会みたいなものを県総合のアリーナ施設の芝の方でやっている。コートを 4 面か 5 面つくってやっているのを一度覗いたことがある。そういう大会の時には大きなところを使っているようだ。
- ・キングスの試合と FC 琉球の 1 万人まつりとぶつかったので、駐車場が大変だったと言っていましたね。時間も 1 時間しかずれていなくて、すごいことになっていたそうです。
- ・でっかいアリーナができるのなら、やっぱり地下駐車場なんかがあるといいですね。コザ運動公園内にアリーナが出来るとしたら、必ず駐車場問題は起きると思う。公共交通もないし、アリーナでイベントをしたら、全部の駐車場が埋まってしまう。
- ・2020 年のオリンピックに向けて、強化合宿の誘致などが始まっているかと思うが、ハンドボールはオリンピックに出ることになっている。どこかに選手村を置くということになったら、候補地としては名古屋か、沖縄のどちらか、または熊本。熊本には女子のオムロンという強いチームがいる。2019 年に女子の世界選手権が熊本に決まっている。1997 年男子世界選手権大会も熊本で開催されている。ハンドボールの登録人数が多い愛知県か、熊本。沖縄が 4 番目、5 番目になってくるのかなと思う。

▽琉球ドラゴンプロレスリング

- ・興行はネーブルカデナのホールで毎週末土・日曜日に開催。さらに年間に 6 回のビッグマッチを行っている。当会場では、百人に満たない観客数での通常興行、2 か月に 1 度のビッグマッチは 300~500 の集客を目指している。月に 6~7 回の試合をしている。
- ・現在使用している施設は、ネーブルカデナ、音市場、てんぶず館のホール。また、ジャスコなどのイベント会場にリングを作り試合をすることもある。
- ・真ん中にリングを作り、四方に観客席があり、後方に 2 階席という形、我々の主催ではないが、これまで県内の会場でプロレスを開催した例は、コンベンションセンターと県立武道館、県総合運動公園体育館、名護の 21 世紀の森体育館は、全日本プロレスや新日本プロレスが来た時に参加した経験がある。
- ・県内で一番大きなものは、コンベンションセンター展示棟か、県立武道館かということになる。こうしたプロレス興行では、1,000 人~2,000 人ぐらいの規模。
- ・正直、プロレスだけでは、1 万人集客は難しい。僕らががんばって 1,000 人。日本で大手の新日本プロレス、全日本プロレスでも、2,000 人程度が実数的にはある。1 万人規模となると、相当な力があると思う。
- ・県内だと、屋内で最大のコンベンションセンターで 3,500 人程度がマックスで、屋外だと 1 万人を超える規模のものもあるということ。アリーナにすると、天気は左右されないメリットがあると思っている。縮小拡大のできるアリーナがベストだと思っている。
- ・以前、大阪府立体育会館でよくやっていた。メインのアリーナと第二競技場というものがあり、メインのアリーナは 1 万人規模だが、サブアリーナは 500~800 人規模なのでそういう形であればいいと思う。中規模のアリーナで毎回のものはやって、年に 1、2 回の大きなものは、メインの 1 万人規模のアリーナでやるという形。
- ・今、後楽園ホールなんかでも、全部貸し、部分貸し、みたいな形でやっている。客席をここからここまで封鎖します。その分、全部貸しよりは、安くします。という感じです。
- ・年間の稼働率で考えると 1 万人のアリーナというのが常設でいるのだろうか？逆にいえば、1 万人を収容するからには、それなりのものをやらないといけない。コンテンツを先に考えないといけない。県内の需要だけで無理なら、内地からのものを考えないといけない。そうすると経費がかさむ、それなら会場の利用費を使いやすいように安くしていかないといけない。
- ・沖縄県内の体育館使用料はプロ興行の場合、基本使用料プラス最高入場料金×100 というシステムがある。最高入場料がたとえば、7,000 円だとすると、7,000×100 で 70 万円。それに基本使用料金 10 万とすると、足して 80 万、90 万になってしまう。アマチュアには普通に借りれるが、プロは興行会社なので使用料金が上がってしまうと、興行そのものができなくなる。エンターテイメントが育たなくなる。
- ・維持費や管理費など、こうした大きな場所になると電気代、光熱費だけでも莫大な額になると思うので、おいそれと安くしますというわけにはいかないと思うが、システムの×100 というのがなくなれば、もう少しエンターテイメントとして広がりを見せると思う。
- ・隣に体育館があるのに大きなアリーナをつくるというのは、観るスポーツやショーなどの興行を楽しめる、ということがキーワードになってきている。そうした会場を整備するにあたり、ちゃんと興行として成功させていただいて、継続的にやっていただかないと。赤字出しながらやっていったら、2 回目、3 回目ができなくなる。
- ・モチベーションとして、次はあそこだという施設は必要。プロレス団体としての目標は、県立武道館である。プロレスだと、あそこを満席にするには 3,000 人である。今は 500 とか、800 の観客動員なんですね。あそこを満席にできるようにみんなでがんばろうと目標をあげている。団体として、1 万人規模のアリーナを目指してがんばろうという。500 人ぐらいのちいさなところでやっていたが、みんなのおかげで、1 万人規模のアリーナでできるようになりましたという、サクセスストーリーができる。立ち上げから見てきたお客さんにとっては、うれしいし、スポーツ団体の醍醐味のひとつでもある。
- ・運営管理に関して、民間の指定管理が理想。指定管理の業者が、僕らであったり、コラソンさんのようなスポーツの会社だと一番いいと思う。選手は、試合や練習以外に仕事をしていたりするので、仕事の間としてあるというのもいい。自分たちが使う会場を自分たちで管理するという視点の方が、気持ちを入れて施設を見ることができる。それができたら一番良い。
- ・常設の設備というのは、日々新しくなるから、必要最低限になると思う。僕らは、音市場でやるときには、そこにある設備でやる。あそこはいろいろ揃っているのでもいい。その方がやるときにはベストである。結局、照明だのオペレーターだのというところまで経費が掛かってくる。
- ・僕らがみているプライドだったり K-1 だったり、あいう演出は、施設にそれらの設備が整っていれば、かなりエンターテイメントな演出ができるんじゃないかと思う。
- ・南インターからすぐなのだから、ホテルを作ったほうがいいと思う。屋内練習場のあるホテル。
- ・コザ運動公園体育館のトレーニングルームが良くなった。古い時にはよく使っていたが新しくなってから

は使っていない。それこそ、コザ運動公園に隣接して宿泊施設とアリーナがあったら、練習もできるし、トレーニングもでき、宿泊もできて、選手村のような感じになる。オリンピックタウンみたいなエリアになる。すると中高生が試合等を見にやってくる。

- ・ いいエンターテイメントを見せてあげないと、レベルって上がっていかないと思う。野球が最たる好例で、プロ野球のチームが沖縄でキャンプするようになってから、高校野球のレベルが格段に上がったと思う。
- ・ 1万人規模のアリーナというのは、県内にないのでもいいと思う。それを使う人がいるかどうかだと思う。僕はまだ使えない。セルラースタジアムでも厳しい、武道館でも厳しいので、もっともっと昇華して、いかないといけない。
- ・ これから先の話をする、新日本プロレスが東京ドームでやっているように、我々琉球ドラゴンプロレスで、1万人集めて、アリーナで開催するという目標となる。

▽沖縄タイムス社

- ・ 一番大きなイベントは春先開催の「沖展」で2週間開催、入場者数は累計で3万人あまり。主に一般的な展示会系で興行的なもの。入場料とって行うものを毎年やっている。
- ・ 現在、沖縄市コザ運動公園内の体育館を使って「沖縄民謡フェスティバル」を開催し、2日間で延べ5,000人くらい。やや狭いので1万人規模のアリーナができれば引越せるかなと思う。
- ・ また、高齢者の方が多いので、2階から1階に降りてくるというのがなくなれば楽なのかと思う。また、駐車場が手狭という問題を抱えているので、それを解消してくれればいいと思う。
- ・ アリーナの使用料が安ければ、うちの広告局で11月に開催しているトータルリビングショーに使えるかもしれない。
- ・ 沖縄市コザ運動公園は、高速入り口に近いので地の利はいいが、渋滞と駐車場が気になる。こうしたものの解決策として、那覇からのシャトルバス、久茂地やモノレール古島駅あたりからだと便利ですね。一番は鉄道があればいいと思ってしまいますね。
- ・ 施設の面で言えば、トータルリビングショーでは、給排水ピット。多目的で施設をつくるには必要だと思う。それ以外では、窓はすべて遮光出来るようにしてほしい。
- ・ 1万人規模のアリーナができれば、サーカスなどが利用可能かもしれない。サーカスはだいたい4年に1回くらい、季節は冬頃で2か月ほどやっている。アリーナであれば風雨よけになるし、空調が入っているから夏でもサーカスができるかもしれない。ただし、全国廻って屋外でテントでやるというのが彼らのスタイルなので、踏襲するかもしれない。
- ・ 沖縄市は宿泊施設がなくて困る。沖縄市民会館でコンサートをするが、設備の整ったいいホテルがすぐ近くにない。第一ホテルさんは市内だが少し離れていて、EMのコスタビスタは北中城村にある。
- ・ コザ運動公園の近くだと、オートキャンプ場はどうだろうか。最近週末にそうしたことがある。ゴミは千円徴収しておいていく。女性は水洗トイレや有料シャワー施設があると便利である。
- ・ サーカスを中部でやったことはない。やはり駐車場スペースの問題で、空き地のある豊崎などでやっている。今回OTVさんが奥武山公園でやるらしいが、駐車スペースがないらしい。軍港は、一般の興業目的のイベントには貸してもらえない。イベントの際には小禄のジャスコと新都心のサンエーの駐車場が満車になるのではないかなと思われる。新都心の県立博物館でイベントをすると、道隣のサンエーさんの駐車場が満車になるようだが、こちら側には苦情はない。相乗効果があるようだ。
- ・ こうした1万人規模のアリーナがあったら、使用したいと思うが、問題は駐車場と料金である。長期使用の場合の割引料金があればいい。
- ・ コンサートについて、雨天を気にせず大物アーティストを呼べるからうれしいのではないかな。
- ・ 1万人規模のコンサートやイベントとなると、警備がたいへんになる。また、大規模駐車場があると、出る時に渋滞になるので、新しくできるイオンさんの駐車場や市民会館、こどもの国、プラザハウス駐車場などに分散し、シャトルバスでピストン運送した方がいいかもしれない。
- ・ いま那覇等でやっているイベントを中部でやってみたい。あるイベントをうるま市でやってみたら中部の方など多く来ていただいたが、同じものを豊崎でやったら中部の方はほとんどいなかった。沖縄本島は南・中・北と行動圏が分かれているようだ。
- ・ 1万人規模のアリーナの利用は、展示会か、サーカス、民舞など。コンサートは、大規模なものはうちではちょっと、厳しい。これまでコンサートは1,500人規模の2回などという市民会館などのホールでやっている。1万人規模というのは、音響の問題や反響板の問題など、いろいろ問題がありそう。以前、RBCさんと県立武道館でオーケストラのコンサートをやったことがあるが、音響でたいへんな苦労があった。それをクリアできるものがあればいいかもしれないが、1万人を集められるのは、国立武道館などで人が集められる大物アーティストだけである。
- ・ タイムス60周年の時、コンベンションセンター展示棟を使い、2日間にわたり、パーティーと大模擬展示をした。昭和の町を再現した。お客様も呼び、中で飲食してもらった。料理は調理してもらって運んできて、中で温めるだけ。消防法では調理をするなら外にガスをおき、パイプで引いてこなければならな

- い。冷蔵庫は使わずに、クーラーボックス対応。1 日目のお客様は 700 人。2 日目は一般のお客様。IH などがあるので、温めは楽だが、給排水が問題。埼玉や横浜のアリーナなどは設備が整っているようなので参考にできるのではないかな。
- ・中部でスポーツイベントをやるとしたら、フットサルをやってみたい。過去に 2 回県立総合運動公園でやった。会場がおさえられず、断念した経緯がある。できれば人工芝の対応も考えてほしい。人工芝がないところは、板張りの体育館でやる。
 - ・フットサルも行政の協力がないとできない。沖縄市のエイサーがここまで続いているのはやはり行政の協力があつたからで、媒体単独でだけでやっていったら、なくなっていたと思う。
 - ・沖縄市はサッカーが盛んである。中心になってやってくれる人がいると、核になって全国大会が開催できるかもしれない。県総合体育館でやっているとき、東京から 2 チーム、新潟から 1 チーム来てもらった。だんだん大きくなりそうな時に会場が抑えられなくなり、ダメになった。
 - ・宿泊施設が近くにあれば、栄養管理からはじまって、リハビリ、スポーツドクターを誘致するなど、その場所で色々なサービスが作り出せるが、宿泊施設が近くにないと難しい
 - ・故障した人のリハビリを兼ねた運動、調整ができるのであれば理想だと思う。健全なスポーツ選手だけ来てもらっても、沖縄のありがたみが分からないだろう。沖縄の気候の良さを体感し「ここが良かったよ」と言われればいい。
 - ・フェンスの向こう側には、いいアーティストが慰問で来る。それと連動すればいいかもしれない。それらは横浜のプロモーターのウリエータープレジが仕切っている。
 - ・アニソン（アニメソング）もいい。コミケ（コミックマーケット）もいいかもしれない。描く人、創造する人がいるから、イベントという舞台を作ってあげれば出るだろうし、アジアに近いから、台湾、中国などから来るだろうと思われる。東京では夏と冬やっている。
 - ・稼ぐ公共施設の複合施設にして、彼らにも納得してもらってやってもらわないといけない。

▽琉球新報社

- ・席数が 1 万人を超えるキャパでないと、帯に短したすきに長しとなる。うちの事業で使う一番大きな劇場は、コンベンションセンターの劇場棟。ペイさせたいときは、2 回まわしてコストの回収をおこなっている。それ以上に価格を落として客席数を増やしたい時は野外になる。
- ・そうすると天候との戦いになり、ぎりぎりまで頭痛めながらやることになる。野外になると、相当に有名でないと、チケットもぎりぎりまで動かなかつたりする。アリーナであればサザンなどのアリーナツアーにも組んでもらえる。また、安室奈美恵はアジアの歌姫とも言われ、沖縄だけでなくアジア圏からの集客も見込めるアーティスト。そうしたコンサートも安心して組める。
- ・座席数からの可能性という点、屋根が付いた施設で 1 万人規模という点と未体験ゾーンである。それくらいのものを生み出すには、県外のプロモーター関係だとか、ネットワークすれば逆に活用幅が広がる。本土からの借り手、もしかしたら台湾あたりのプロモーターがくるということも想像がつくし、可能性がある。
- ・設備としては劇場として使えるような、コンサートも可能な音響がしっかりしていればと思う。スポーツに関しては、2020 年に東京オリンピックがあり、他の都市でやろうと言い始めている中、沖縄は地理的に東アジアの大会など、バスケットだけでなく、フットサルなど室内でできる球技、例えば体操競技でもいいと思うんですよ。沖縄という拠点で、アジアとか視野に入れれば広がりが出てくるのかなと思う。
- ・アジア地域の交流事業を県も含めて増やそうとしている。国の政策としてあるので、それに乗っかる。それに関しては、沖縄県は手を上げるのが遅いと聞いていますので、今からでも。
- ・文化面に関しては、沖縄市はエイサーがありますよね、世界エイサー大会をやると聞いていますから、どうにかしてこうした感じのものを。
- ・希望は、音の反響に関しての音響設計部分をきちっとする。合唱や交響樂團もできるといいですね。今は、大掛かりな樂團など単価を上げて、2 回公演をしないとペイできない。でも、これだけ大きな会場でいい音でいい音楽が聴けたら一番いいと思いますね。
- ・あと客席ですね、ちゃんと見下ろせるのか。アメリカの NBA で使用されるアリーナは多目的になっていて、客席の勾配がすごい、すり鉢状になっている。勾配やつるされている得点版など、計算されつくされているんだろうと思う。
- ・沖縄市の運動公園は駐車場がネック。周辺の導線、流れも大切ですね。1 万人が出入りするわけですから。駐車場の場所や数、シャトルバスを使うなら発着場などとの兼ね合いを考えて作らないといけないですね。交通機関から、イベント会場までワクワク感を演出できればいいですね。
- ・イベント内容によって、なにか地域に関わった特産物とかが販売できるスペースもあればいい。
- ・今後、MICE のイベントが出てくるので、スポーツコンベンションとしてとか、棲み分けしたものを作らないといけない。
- ・ボクシングのタイトルマッチなど格闘技系の試合もできますね。それなりの選手がいれば、誘致はします。

具志堅用高選手の最後の試合をやったプロモーターは新報ですから。

- ・美術の展示もできるのかな。それくらい幅広さを持った施設でないと、沖縄では1万人規模のアリーナは大変じゃないかな。美術展覧会は美術品の温度と湿度を一定に保たないといけないので空調が大変。以前に日展の沖縄展をやったが、空調の機材を持ち込んでも大変だった。
- ・基本、音響と空調を心配してもらえたら、幅広いイベント開催が可能だとおもう。夏の直射は大変に厳しいので、暑い時はコンクリートが蓄熱して冷えなかったりする。
- ・この大きさならシルクドソレイユなどサーカスの開催も可能。動物の臭いもどうにかなれば。
- ・かつてコンベンションセンターでディズニーオンアイスということでアイスショーをやったことがある。新報、OTVとそれにコンベンションセンターも主体的にやった。世界ツアーの途中。リンク設営など、機材はすべて持込み。ここで、中国の選手も入れて、近いし、アジアを視野にいれて、日本やアジアのトップスケーターの選手権やアイスショーなども開催できたらいい。
- ・キャパが大きいので、沖縄だけの市場を考えるのではなく近隣のアジア地域を含めた広がりをもった誘客を考えてのイベント誘致、それが出来るイベントなどとの連携を。東アジア地域の交流事業としてスポーツだけでなく、文化事業も行えるようにしてほしい。
- ・県内のヒアリングだけでなく、全国のアリーナツアーをしかけている大手プロモーターさんにもぜひ、詳しい話を聞いてきたらいいと思う。大物のミュージシャンなどのツアーである。これまでは施設がないからできなかったが、1万人規模のアリーナができれば、北海道をスタートして、沖縄ファイナルというドームツアーが見込めるわけである。我々新聞社は、事業として媒体として、そうしたところのプロモーターと一緒に1万人を呼ぶ。そうした仕事ができるようになる。西日本ならキョウドウさんなどの大手のプロモーターです。
- ・アリーナツアーは、必ず観光が付いてきますからね。福山雅治さんがやったコンサート、2万ぐらいの半分はファンクラブのツアー客と聞く。
- ・数年前からアジア国際音楽祭というのをやっている。台湾まで市場になると思う。沖縄市は音楽の街ということで売り出しているから、その辺からスタートで、アリーナなど音響もしっかりすればいい。アメリカの会場などは、すり鉢状で音も割れずに、スポーツの時でも、前にかからずにちゃんと見えるし、聞こえる。
- ・アメリカなどは、野球場を中心に街ができていところもある。日本もそういったものが動き始めている。まちづくりのひとつに組み込まれる公共事業であってほしいですね。単体で潤うのではなく、連携して潤うかたちになってほしい。
- ・ホークスのドームは最上階がVIP室で、飲食しながら観戦できる。そうした場所で、商談なども。ただの会議室ではなく、窓際にカウンターをつけるなど工夫して。
- ・新報は、単発で音楽イベントをやったりする。スポーツイベントは、何年か前に大相撲を浦添で。施設があれば、それにあわせて、イベントを組むことができる。
- ・使う側の目線を忘れないで、使用料など費用面もどうにか使いやすいように折り合いを。1万人規模だと予約は1年以上前から。作ってから、ああここが！と言われたいようなものができるといい。とにかく、音響には、気をつけてほしい。
- ・大きな興行としてスーパー歌舞伎、サーカス、シルクドソレイユ、などできそう。
- ・県内でもいろいろな規模のイベントがやられているが、県内の各市町村などで市場を奪い合うより、県外、近隣のアジアなども市場として開拓、あちらのプロモーターやタレントなどとも連携して、イベントと観光旅行などのコースなどを提供できるようにしたらいいと思う。それには、やはり、施設予約は3年前位からできるようにしないと、集客は厳しいだろう。
- ・ベースを特化するとか、このアリーナはキングスが試合をやっている場所というような、そういう場所にしたらいい。

▽沖縄県バレーボール協会

- ・バレーボール協会に加盟している団体は9団体。小学校、中学校、高校、大学、実業団、ママさん、ソフトバレー、ビーチバレー、マスターズ。年間に50以上の大会がびっしり入っている。47の県内の大会、九州大会、全国大会がある。今年はこちらに全国大会が石垣であった。全九州大学バレーが、ほぼ2年に1度は、まわってくる。さらに男女ともにある。
- ・小学校、中学校、高校が一巡して回ってきます。高校だけでも、5月、6月、2月にあり、天皇杯（9月）を8県で回ってくる。2年に1回は回ってくる。
- ・Vプレミアリーグ、Vチャレンジリーグがあり、それを誘致すれば沖縄開催できる。去年も誘致をして、大きな会場がないので名護市と那覇市でサブアリーナもついているところということで開催。使用できるところが限定されてくる。現在、豊見城市が大きな体育館を建設中なので、沖縄市ができれば、それらを循環していくんじゃないかと思っている。

- ・自分たちで九州大会をやっている、結構なバレーボールのコートが必要になってくる。同じ地区でコート数が確保できたら、会場移動もなくて、大会運営がものすごく楽になる。そのためには近場にホテル。現状ではホテルがないので那覇市から通うことになる。ホテルが出来たら、誘致はかなり可能。常に大会が小中高のそれぞれが九州持ち回りなので回ってくる。
- ・高校で大きな大会は2月の大会で、各県4チームで男女。8チーム×8県で64チーム×25名、それから保護者と1,600名ぐらいの規模。やはり沖縄市の場合は、ホテルが少ないことがネックになる。
- ・Vリーグを誘致する場合は、間違いなく3,000名～4,000名は入る、出来たら6,000人規模と思っていたら、計画のアリーナは1万人規模ということなので、ぜんぜん問題ないだろう。
- ・特に、国際大会などの可能性が今後あります。センターコートの横に、せり出し式の観客席など、またパイプイス席があったりするんですね。
- ・そうすると、バレーボールにはちょうどいい。東京の代々木のイメージですね。メインアリーナはコートが4面とれ、サブアリーナは公式で1面とれる。
- ・バレーにとっては、メインアリーナでコートが4面とれたら最高である。
- ・国際大会になると、エンドラインから8mは必要。バレーコートは9m四方でエンドラインから8m。サイドラインから8m。サイドラインとサイドラインは10mになる。
- ・コザ運動公園の体育館は、バレーボールコートが3面とれるが、中途半端な数で、大会運営がやりづらい。4面取れないとリーグ戦や学生の男女の大会を同時に進められない。
- ・国際大会やプレミアリーグは、メインアリーナとサブアリーナがないといけなない。
- ・今の時世、どのスポーツも県外どこへ行っても、どこの田舎の体育館にいても、市とか、町が持っている体育館でもそれこそ空調もきき、しっかりしていて、メインとサブがほぼ必ずある。沖縄市の体育館には、それがなくて、プレミアとか、国際大会を誘致できないですよ。
- ・バレーボールでは、国内大会規定の気温は16℃～25℃の範囲。照明は1,000～1,500ルクス、エリアの表面から1mの高さで。
- ・Vチャレンジなどは、6チームくるので、それなりの数の控室、運営室、協議審判、来賓、補助員男女で2、大会議室（抽選会などをおこなう）、小会議室以上の13ぐらいの付帯施設が必要。どの競技でも全国大会、国際大会レベルなら最低、これくらいは必要となる。
- ・春高バレーで埼玉スーパーアリーナを使ったことがある。使用料が高いのでなかなか使わない。特にアマチュア団体はお金がないのでいくらかいい施設があっても使えない。
- ・併設したレストランとかいいと思います。ちょっとしたカフェテリア。フードコートみたいな。代々木体育館とか、東京体育館などは、フードコートがありますね。ああいうのがあるといい。
- ・どこにつくるにしろ、近場にショッピングできる場所があればいい。本屋とか、映画館とかがあれば集客できるのでは？そこで、来たお客さんにお金を落としてもらう方法も考えないとね。
- ・バレーボールの決勝とか、準決勝も必ずそこでやる。そしてテレビの取材もくる。というくらいの施設であってほしい。5,000人規模で、それなりの駐車場があればいいと思う。
- ・バレーボールは床張りがベスト。春高や国際試合になるとオレンジコートというのを敷く。しかし、莫大な労力がかかる。コンクリートの床だと大変かも。（多目的な施設となると、床が心配。コンクリートだと、コートを敷くのにお金と労力がかかり、アマチュア団体で使うとなると、頻繁に使えなくなる可能性もある。）
- ・場所的には北部からも、那覇からも中間の距離で、高速のすぐそばで文句なしの場所であるが、宿泊施設が付随していれば、九州大会などは、文句なく誘致できるのだが。
- ・県内のバレーボール人口は、高校生だけでも数千人。高校だけでも、90数チームある。1チーム15名として計算すると、1,500人。中学校は143チーム～200チーム。大学、実業団、ママさんチーム、マスターズも含めると、1万人はいるだろうと思う。球技のなかでも多いはず。
- ・来年は那覇市でマスターズの全国大会を開催する。沖縄市は、まず、キャパがないから駄目だということになった。
- ・去年はVリーグの試合で久光製薬も21世紀の森体育館と那覇市民体育館で試合をしました。去年、今年と久光製薬は優勝しましたね。（久光製薬には沖縄出身のリベロで座安琴希選手がいる）
- ・2020年のオリンピックに向けて、コザ運動公園の敷地内あたりに選手村のような施設があれば、合宿がくる。また、既存のトレーニングセンターがある。
- ・何で選ぶかというと、一番は、アリーナの大きさと駐車場の広さなど。競技団体はやっぱり、大きな大会、国際大会は沖縄市のアリーナを選ぶ。というところまで、別の施設と差別化をはかってほしい。できれば、バレーボール優先をお願いします。

▽沖縄県バドミントン協会

- ・ 沖縄のバドミントン人口は協会に登録しているのが 2,500 名ぐらい。しかし、登録していない方がむしろ多いと思われ実際はその倍の 5,000 名ぐらいいると思う。
- ・ 小学校は地域のクラブチーム、中学校は部活が盛ん。正確な内訳はわからないが一番登録人数が多いのが中学生で、高校になるとぐっと減る。
- ・ 小学生は小学生連盟主催の大会があり、種目別とかランク別、九州大会や全国への派遣の大会が年に 6 回ぐらいある。
- ・ 中学生は中体連と協会主催の大会に分かれ、中体連の大会は新人大会と本戦を学校の体育館で行う。協会主催の大会は 4 回。
- ・ 高校生は少なく、協会主催が年 2 回でシングルとダブル。そして高体連。そして社会人。
- ・ 市町村の大会だと、市町村体育館は市町村の方が予約優先であり、我々協会は予約がとりづらい。実業団連盟は人数があまりいないため、高校の体育館を貸してもらっている。
- ・ バドミントンは実業団チームによる日本リーグがある。去年は協会を通じて呼び那覇市民体育館を使ってやった。男女 1 チームずつぐらいを呼んで試合をし、ダブルス 2 試合、シングルス 1 試合、団体戦 1 試合ずつ行う。1 面、1 面の 2 面で開催し、1,400 名ぐらい集客したが、会場がスカスカな感じで、失敗であった。3 年前にも西崎総合体育館でやったが、同じく 1,400 名ぐらいだった。1 万人規模のアリーナでは、こうした観戦型の試合では集客が 2 倍になったとしても、客席をうめるのは難しいと思う。バドミントンは現在ある体育館でも大丈夫。
- ・ こちらが希望し、受け入れ体制があるとバドミントン協会が判断すれば、日本リーグも誘致できる。しかし、今の時点では、うちの体制が整っていないので、かなり厳しい。
- ・ 可能性としては、全日本社会人大会、全日本シニアの大会、実業団の大会など、競技としての大会を誘致したら、利用する可能性はある。特に実業団はあるだろう。
- ・ バドミントンをやる場合、競技施設の壁は、白を基調とした壁でない方がよい。シャトルが白なので同化して見えにくくなる。また、ライトの角度が変えられるのはもちろんであるが、試合をするにあたり、照明も何ルクスと決まっている。世界公式のものであればいい。
- ・ 1 万人規模のアリーナはあればいいと思う。いろんなスポーツを呼べると思う。こちら主催でやる大会は、会場をいくつか押さえないといけない。いつも、「帯に短し、たすきに長し」なので、一か所そういう施設ができればそれがいい。個人的にはそう、思っている。
- ・ キングスやコラソンなどのプロスポーツが利用できる 1 万人規模のアリーナを作り、体育館は競技する我々のようなものが利用しやすいようにしてほしい。そしてアリーナが空いているときに、他の競技の大きな大会に使っていいよ、というふうになればいい。維持管理がどれくらいなのかわからないので下手なことは言えないが、稼働率も考えてやってほしい。
- ・ アリーナに付帯する施設としては、やはり、宿泊施設があればいいと思う。セットで誘致できる。たとえば、全日本の合宿を呼ぶとかが、できる。バドミントンでは毎年、九州合宿というのがあり、1 月に鹿児島島の大きな体育館を毎年、押さえている。それを誘致できる可能性が出てくる。沖縄市のホテルは古い感じがして、泊まるなら北谷に行きたくなる。
- ・ 懸念事項というと、沖縄だと、アクセスの問題、駐車場の問題、施設を作って集客できなければしょうがないし、ソフト面をどうするかが問題である。そこをクリアしてくれたらいい。
- ・ バドミントンは地味な印象だが、日本リーグはとても楽しい。本部からこういう大会はどうか？という打診があれば、アリーナという施設があり、予約が取れば、開催したいと言えるようになると思う。

▽沖縄市観光ホテル旅館事業協同組合

- ・ 大きな施設ができることで、いろいろなイベント、会議などが行われ、集客につながると考える。その上で、沖縄市に滞在して頂くなど、経済効果へつながると思う。
- ・ スポーツ合宿は 12 月半ばぐらいから 3 月半ばぐらいまで、陸上、ソフトボールなど、全国で活躍されている選手にも利用してもらっています。
- ・ 近年、スポーツ合宿については、県内の他地域でも運動施設の整備が進み、競争となりつつあるようです。アリーナも含め、施設が整うことはプラスに働くだろうと考えます。
- ・ 人数にもよりますが、ホテルから送迎バスを出すこともやっています。バスに関しては他の宿泊施設でも所有している所もあり、空港や運動場を利用される方に対し、マイクロバスなどできめ細かなサービスを提供できるのではないかと。
- ・ 現在、約 75%程度が県外（国内）のお客様、15%ぐらいが県内（離島含む）、残りの 10%は海外からのお客さんの割合で利用してもらっている。
- ・ 現在は観光よりもビジネスの利用の方が多い印象。
- ・ 海外からの利用客はビジネスと観光が半々程度。韓国、台湾、中国等、アジア圏からの観光客が増加傾向にあり、観光ではパヤオ等が人気のようです。

- ・アリーナ単体ではなく、パヤオや文化施設などと連携できると良いのでは。
- ・最近では、団体旅行ではなく、個人旅行が多く、スマートフォンやネット利用でいろいろな物を探してレンタカーで移動する。
- ・一流の B 級を目指して、多様性、柔軟性、きめ細かなサービスを心掛けたい。個々のお客様に対応できる「多様性」「利便性」「柔軟性」といったキーワードが重要になっている。
- ・施設を通じて、多様な方との交流が生まれることがいろいろなきっかけとして作用するのではないかと。宿泊施設のサービスについてなどご意見頂ければ全体の質の向上にもつながる。
- ・広島スタジアムの話の聞くと、共通認識というか、市民一体となって、アリーナを利用してもらえればと思う。
- ・民間のアイデアを活かせるような運営のあり方が良いと思う。指定管理ならばより効率的な運営で、施設整備後も前向きな方向性を打ち出して欲しい。

▽DMC 沖縄

- ・ MICE として、企業の研修、食事、会議、その他、さまざまなアクティビティを行うことが考えられる。
- ・ 沖縄は地元のパイ（域内人口）が少ないため、入域客数によってこれらの利用者数も変わってくる。
- ・ 設備として多目的に使うことを前提に考え、利用の自由度を確保するため、天吊りや客席のつくり、それから使用電力量なども重要になってくる。
- ・ 県外国外から飛行機でやってくる為、沖縄に到着すると日常とは異なる雰囲気の中、チームビルディングや各種の研修を行うことができる。こうした非日常性を伴う装置があることも沖縄の魅力と言える。
- ・ 企業で来られる場合、中北部のリゾートホテルでの宿泊も多い為、空港から宿泊施設に向かう間に位置するアリーナは利用の見込みがあると考えられる。
- ・ 空港から 30 分程度のアリーナでアクティビティを行い、恩納以北の宿泊先までさらに 30 分程度という地理的に恵まれた位置にあると考えられる。
- ・ 日本全国に支店や営業所がある企業が各地のスタッフを沖縄に集めて研修を行うこともある。また、世界規模の企業の場合、アジア圏のスタッフが沖縄に集まって研修や報償旅行などを行うケースがあり、こうした海外からの入域客が増加傾向にある。
- ・ MICE の場合、規模は数百人から 2,000 人程度と幅があるが、現在は 300~500 人程度のものが多い。
- ・ 企業の研修、報償旅行などは週末よりも平日の方が多い傾向にある。

注）関連団体意向調査について、特に重要と思われる意見にアンダーラインを引いている。

資料3 沖縄市多目的アリーナ施設整備基本構想策定委員会 資料

委員名簿

【委員長】

宮森 正樹

学校法人 沖縄国際大学

教授

【副委員長】

崎浜 秀嗣

一般社団法人 沖縄市観光協会 事務局長

【委員】（五十音順）

木村 達郎

沖縄バスケットボール株式会社

代表取締役社長

島袋 勇

株式会社ピーエムエージェンシー

製作プロデューサー

島袋 隆司

特定非営利活動法人 沖縄市体育協会

会長

下地 貴子

一般財団法人

沖縄コンベンションセンター館長

沖縄観光コンベンションビューロー

平田 嗣森

沖縄商工会議所

中小企業振興部長

委員会開催概要

日時	検討事項	備考
平成 26 年 12 月 15 日 第1回 策定委員会	・委員長選任 ・基本構想策定の流れ ・基礎調査について	基礎調査の方針、調査内容等の確認
平成 27 年 1 月 16 日 第2回 策定委員会	・基礎調査に関連する資料説明 ・関連団体意向調査について ・国内事例視察について ・多目的アリーナの基本方針について意見収集	近隣地域でのアリーナ計画等の確認およびメインコンセプトの策定
平成 27 年 2 月 18 日 第3回 策定委員会	・多目的アリーナ基本構想資料説明 ・基本構想(案)について協議	アリーナ建設候補地、基本方針および今後の課題について検討

<策定委員会の様子>



沖縄市多目的アリーナ施設整備基本構想策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 この要綱は、「沖縄市多目的アリーナ施設整備基本構想」(以下、「基本構想」という。)を策定するため沖縄市多目的アリーナ施設整備基本構想策定委員会(以下、「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、基本構想策定に向けて、専門的な見地から次に掲げる事項の検討を行う。

- (1) 基本構想策定に関すること
- (2) その他委員会に関すること

(組織)

第3条 委員会は、別表1に掲げる委員をもって組織する。

2 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長及び副委員長は委員の互選により定める。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総括する。

4 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は欠けたときは、その職務を代行する。

(任期)

第4条 委員の任期は、第2条に規定する基本構想の策定等をもって終了する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、委員長が必要に応じて招集する。

2 委員会が特に必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、説明及び意見を聞く事が出来る。

(報償費)

第6条 沖縄市報償費支払い基準に基づき基本構想受託業者が支給する。

(事務局)

第7条 事務局の構成は、沖縄市役所 企画部 プロジェクト推進室及び基本構想受託業者とする。

(補則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附則

この要綱は、平成26年12月11日から施行する。

沖縄市多目的アリーナ施設整備基本構想

発 行 日:平成27年3月

発 行 者:沖縄市 企画部 プロジェクト推進室

沖縄市仲宗根町26番1号

Tel:098(939)1212(代表)

調査・編集:(有)長谷部建築研究所 (株)寛計画共同企業体

有限会社 長谷部建築研究所

沖縄県沖縄市比屋根2丁目11-5 つぼみビル

Tel:098(930)0874(代表)

株式会社 寛計画

沖縄県那覇市久米 1-7-1 シトラスビル5F

Tel:098(861)2396(代表)